

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部・学科の設置							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンヒロサキダイガク 国立大学法人弘前大学							
フリガナ大学の名称	ヒロサキダイガク 弘前大学 (Hirosaki University)							
大学本部の位置	青森県弘前市大字文京町1番地							
大学の目的	弘前大学は、教育基本法(平成18年法律第120号)第7条の規定に基づき、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的	心理学及び臨床心理学などの専門領域に関する知識と技能に加え、医学及び保健医療分野などの基本領域に関する知識と技能、科学的思考力を有し、こころの問題を感受し、その問題を解決できる能力や生命に対する高い倫理性と豊かな人間性を有し、悩める人に寄り添い、心理支援職としての役割を通して地域住民の健康と福祉に寄与し、社会に貢献する地域のリーダーとなる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次 人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年月 第 年次	所在地
	医学部 心理支援科学科 [School of Clinical Psychological Science]  計	4  4	10  10	—  —	40  40	学士 (心理学) [Bachelor of Psychology]	令和2年4月 第1年次	青森県弘前市大字本町66番地1号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p><b>【学部】</b> 教育学部学校教育教員養成課程 [定員減] (△10) (令和2年4月)</p> <p><b>【大学院】</b> 地域社会科学研究科 地域リノベーション専攻 (修士課程) (15) (平成31年3月意見伺い) 産業創成科学専攻 (修士課程) (15) (平成31年3月意見伺い)</p> <p>人文社会科学研究科 文化科学専攻 (修士課程) (△10) (令和2年4月学生募集停止) 応用社会科学専攻 (修士課程) (△6) (令和2年4月学生募集停止) 人文社会科学専攻 (修士課程) (16) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>教育学研究科 学校教育専攻 (修士課程) (△16) (令和2年4月学生募集停止) 教職実践専攻 (専門職学位課程) (△16) (令和2年4月学生募集停止) 教職実践専攻 (専門職学位課程) [定員増] (18) (平成31年4月事前伺い)</p> <p>農学生命科学研究科 農学生命科学専攻 (修士課程) [定員減] (△10) (令和2年4月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	医学部心理支援科学科	講義 117 科目	演習 27 科目	実験・実習 6 科目	計 150 科目	131 単位		

教 員 組 織 の 設	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教 員 等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分		人	人	人	人	人	人	人
	医学部心理支援科学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	137 (137)
	計	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	— (—)
既	人文社会科学部							
	文化創生課程	8 (11)	15 (15)	5 (5)	5 (1)	33 (32)	0 (0)	0 (0)
	社会経営課程	14 (15)	14 (15)	5 (5)	3 (0)	36 (35)	0 (0)	0 (0)
	教育学部							
	学校教育教員養成課程	30 (31)	26 (22)	7 (14)	7 (4)	70 (71)	0 (0)	67 (67)
	養護教諭養成課程	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	6 (6)
	医学部医学科	43 (43)	28 (28)	21 (21)	77 (77)	169 (169)	15 (15)	163 (163)
	医学部保健学科							
	看護学専攻	10 (10)	6 (6)	5 (5)	10 (10)	31 (31)	4 (4)	27 (27)
	放射線技術科学専攻	6 (6)	2 (2)	4 (4)	7 (7)	19 (19)	0 (0)	3 (3)
	検査技術科学専攻	6 (6)	3 (3)	5 (5)	4 (4)	18 (18)	1 (1)	23 (23)
	理学療法学専攻	3 (3)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
	作業療法学専攻	3 (3)	1 (1)	3 (3)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	1 (1)
	理工学部							
	数物科学科	10 (10)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
	物質創成化学科	6 (6)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
	地球環境防災学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	電子情報工学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
	機械科学科	8 (8)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	25 (25)	0 (0)	1 (1)
	自然エネルギー学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	農学生命科学部							
	生物学科	5 (5)	7 (7)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
	分子生命科学科	5 (5)	7 (7)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
	食料資源学科	8 (8)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
	国際園芸農学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
	地域環境工学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	2 (2)
	生物共生教育研究センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	白神自然環境研究センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	医学部附属病院	0 (0)	9 (9)	35 (35)	69 (69)	113 (113)	32 (32)	0 (0)
	被ばく医療総合研究所	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	地域戦略研究所	5 (5)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
	生涯学習教育研究センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)

概 要	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	国際連携本部		0 (0)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	4 (4)
	教育推進機構		1 (1)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	10 (10)	0 (0)	47 (47)
	COI研究推進機構		1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	COC推進室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	男女共同参画推進室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計		210 (215)	201 (198)	100 (107)	232 (222)	743 (742)	52 (52)	— (—)
	合計		214 (219)	205 (202)	100 (107)	232 (222)	751 (750)	52 (52)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		307 (307)		295 (295)		602 (602)		
	技 術 職 員		733 (733)		299 (299)		1032 (1032)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	そ の 他 の 職 員		3 (4)		94 (94)		97 (98)		
	計		1,046 (1,046)		688 (688)		1,734 (1,734)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	76,254 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		76,254 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	82,910 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		82,910 m <sup>2</sup>		
	小 計	159,164 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		159,164 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	169,525 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		169,525 m <sup>2</sup>		
	合 計	328,689 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		328,689 m <sup>2</sup>		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	166,963 m <sup>2</sup> ( 166,963 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		166,963 m <sup>2</sup> ( 166,963 m <sup>2</sup> )			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	102室	111室	459室	12室 (補助職員 0人)	7室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医学部心理支援科学科			8 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	—	821,909 [232,587] (821,909 [232,587])	24,806 [6,310] (24,806 [6,310])	7,047 [5,717] (7,047 [5,717])	2,213 (2,213)	6,242 (6,242)	10 (10)		
	計	821,909 [232,587] (821,909 [232,587])	24,806 [6,310] (24,806 [6,310])	7,047 [5,717] (7,047 [5,717])	2,213 (2,213)	6,242 (6,242)	10 (10)		
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	7,680 m <sup>2</sup>		626 席		868,473 冊				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	文京町	3,394 m <sup>2</sup>	野球場 (2面)		武道場 (883m <sup>2</sup> )				
	本町		弓道場 (140m <sup>2</sup> )		テニスコート (8面)				
	1,457 m <sup>2</sup>		プール (50m)		サッカー・ラグビー場 (2面)				
		馬房 (196m <sup>2</sup> )		400mトラック					
経 費 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当たり研究費等		—	—	—	—	—	—	
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—	

見積り及び維持方法の概要	図書購入費		-	-	-	-	-	-	-
	設備購入費		-	-	-	-	-	-	-
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		-							
既設	大学の名称	弘前大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
大	【大学院】	年	人	年次人	人		倍		
	人文社会科学研究科(修士課程)						1.16		青森県弘前市大字文京町1番地
	文化科学専攻	2	10	-	20	修士(人文社会科学)	1.00	平成11年度	
	応用社会科学専攻	2	6	-	12	修士(人文社会科学)	1.33	平成11年度	
	教育学研究科(修士課程)						1.04		青森県弘前市大字文京町1番地
	学校教育専攻	2	16	-	32	修士(教育学)	1.09	平成6年度	
	教科教育専攻	2	-	-	-	修士(教育学)	-	平成6年度	
	養護教育専攻(専門職学位課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	平成14年度	
	教職実践専攻	2	16	-	32	教職修士(専門職)	0.99	平成29年度	
	医学研究科(博士課程)						0.91		青森県弘前市大字在府町5番地
	医科学専攻	4	60	-	240	博士(医学)	0.91	平成16年度	
	保健学研究科(博士前期課程)						1.01		青森県弘前市大字本町66番地1
	保健学専攻(博士後期課程)	2	30	-	60	修士(看護学又は保健学)	1.08	平成19年度	
	保健学専攻	3	12	-	36	博士(保健学)	1.05	平成19年度	
学	理工学研究科(博士前期課程)						0.92		青森県弘前市大字文京町3番地
	理工学専攻(博士後期課程)	2	120	-	240	修士(理工学)	0.85	平成22年度	
	機能創成科学専攻	3	6	-	18	博士(理学又は工学)	0.44	平成16年度	
	安全システム工学専攻	3	6	-	18	博士(理学又は工学)	1.38	平成16年度	
等	農学生命科学研究科(修士課程)						0.86		青森県弘前市大字文京町3番地
	農学生命科学専攻	2	60	-	120	修士(農学生命科学)	0.86	平成24年度	
	地域社会研究科(博士後期課程)						1.22		
	地域社会専攻	3	6	-	18	博士(学術)	1.22	平成14年度	
	【学部】								
	人文社会科学部						1.03		青森県弘前市大字文京町1番地
	文化創生課程	4	110	0	440	学士(人文社会科学)	1.02	平成28年度	
	社会経営課程	4	155	0	620	学士(人文社会科学)	1.04	平成28年度	

国費(運営費交付金による)

平成29年度より学生募集停止

の 状 況	人文学部						—	青森県弘前市大字		
	人間文化課程	4	—	—	—	学士(人文社会科学)	—	平成17年度 文京町1番地	平成28年度より 学生募集停止	
	現代社会課程	4	—	—	—	学士(人文社会科学)	—	平成17年度		
	経済経営課程	4	—	—	—	学士(人文社会科学)	—	平成17年度		
	教育学部							1.03	青森県弘前市大字	
	学校教育教員養成課程	4	150	0	600	学士(教育学)	1.04	平成12年度 文京町1番地		
	養護教諭養成課程	4	20	0	80	学士(教育学)	1.02	平成12年度		
	生涯教育課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成12年度	平成28年度より 学生募集停止	
	医学部							1.00		
	医学科	6	112	2年次 20	772	学士(医学)	1.00	昭和24年度 青森県弘前市大字 在府町5番地		
	保健学科	4	200	3年次 30	860	学士(看護学又は保健学)	1.01	平成12年度 青森県弘前市大字 本町66番地1		
	理工学部							1.01	青森県弘前市大字	
	数物科学科	4	78	3年次 2	316	学士(理工学)	1.01	平成28年度 文京町3番地		
	物質創成化学科	4	52	3年次 1	210	学士(理工学)	1.00	平成18年度		
	地球環境防災学科	4	65	3年次 2	264	学士(理工学)	1.01	平成28年度		
	電子情報工学科	4	55	3年次 2	224	学士(理工学)	1.04	平成18年度		
	機械科学科	4	80	3年次 2	324	学士(理工学)	1.01	平成28年度		
	自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	122	学士(理工学)	1.02	平成28年度		
	数理科学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成18年度	平成28年度より 学生募集停止	
	物理科学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成18年度		
	地球環境学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成18年度		
	知能機械工学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成18年度		
	農学生命科学部							1.02		青森県弘前市大字
	生物学科	4	40	0	160	学士(農学生命科学)	1.02	平成20年度 文京町3番地		
	分子生命科学科	4	40	0	160	学士(農学生命科学)	1.01	平成20年度		
	食料資源学科	4	55	0	220	学士(農学生命科学)	1.00	平成28年度		
	国際園芸農学科	4	50	0	200	学士(農学生命科学)	1.03	平成28年度		
地域環境工学科	4	30	0	120	学士(農学生命科学)	1.04	平成28年度			
生物資源学科	4	—	—	—	学士(農学生命科学)	—	平成20年度	平成28年度より 学生募集停止		
園芸農学科	4	—	—	—	学士(農学生命科学)	—	平成20年度			
		<p>(附置研究所)</p> <p>名 称： 被ばく医療総合研究所</p> <p>目 的： 本学における放射線被ばく医療に関する研究を推進し、各学部、各研究科等における教育の支援等を行うほか、緊急被ばく事故に対応できる専門的人材の養成を行うことを目的とする。</p> <p>所 在 地： 弘前市大字本町66番地1</p> <p>設置年月： 平成22年10月</p> <p>規 模 等： 保健学研究科内</p> <p>名 称： 地域戦略研究所</p> <p>目 的： 本学における新エネルギーの研究開発及び食料科学に関わる専門的かつ学際的な研究を推進し、本学の教育研究の進展と社会及び産業の発展に資することを目的とする。</p> <p>所 在 地： (新エネルギー研究部門) 青森市大字松原2丁目1番地3 (食料科学研究部門) 青森市大字柳川2丁目1番地1</p> <p>設置年月： 平成30年4月</p> <p>規 模 等： (新エネルギー研究部門) 土地 1,604㎡, 建物 2,454㎡ (食料科学研究部門) 土地 516㎡, 建物 316㎡</p>								

(附属図書館)

名 称： 附属図書館  
目 的： 附属図書館は、教育、研究及び学習活動に資するため、図書、雑誌その他の資料を収集、管理し、本学の職員及び学生の利用に供するとともに、地域社会の図書館活動に協力し、学術情報の利用に寄与することを目的とする。  
所 在 地： (本館) 弘前市大字文京町1番地  
(医学部分館) 弘前市大字在府町5番地  
設置年月： (本館) 昭和24年5月  
(分室) 昭和27年3月  
規 模 等： (本館) 土地 135,267㎡, 建物 6,111㎡  
(医学部分館) 医学部内

(学部等の附属施設)

名 称： 教育学部附属幼稚園  
目 的： 幼児に適切な環境を与えてその心身の調和的発達を助長するとともに、教育学部における幼児教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、幼児教育の促進向上のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを達成することをもって目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1  
設置年月： 昭和26年4月  
規 模 等： 建物 1,065㎡

名 称： 教育学部附属小学校  
目 的： 心身の発達に応じて初等普通教育を施し、併せて教育学部における小学校教育の実証的研究に協力し、又、学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるほか、小学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1  
設置年月： 昭和40年4月  
規 模 等： 建物 8,288㎡

名 称： 教育学部附属中学校  
目 的： 小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施し、併せて教育学部における中学校教育の実証的研究に協力し、また、学部の計画に従い、学生の実習の実施に当たるほか、中学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字学園町1番地1  
設置年月： 昭和40年4月  
規 模 等： 建物 8,171㎡

名 称： 教育学部附属特別支援学校  
目 的： 知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、教育学部における知的障害教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、知的障害教育の発展のため、積極的に地域の教育機関に協力することを達成することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字富野町1番地76  
設置年月： 平成19年4月  
規 模 等： 土地 10,617㎡, 建物 3,874㎡

名 称： 教育学部附属教育実践総合センター  
目 的： 附属学校園及び他の教育諸機関並びに地域社会と連携し、教育実践と学修支援に関する業務を担い、実践的指導力を持つ教員の養成に寄与するとともに、地域社会の教育活動を支援することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字文京町1番地  
設置年月： 平成13年4月  
規 模 等： 建物 541㎡

名 称： 教育学部附属教員養成学研究開発センター  
目 的： 教員養成学(教員養成の方法と効果に関する理論的実証的研究)を推進し、カリキュラム開発等に反映させることを通じて教員養成諸活動の不断の改善に寄与することを目的とする。

所 在 地： 弘前市大字文京町1番地  
設置年月： 平成15年10月  
規 模 等： 教育学部内

附属施設の概要

名称：教育学部附属教員免許状更新講習支援室  
 目的：更新講習に係る企画，立案，調整及び実施に関する事，講習内容及び実施方法の改善に関する事等の業務を行い，本学における更新講習の充実及び発展に寄与することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町1番地  
 設置年月：平成28年10月  
 規模等：教育学部内

名称：医学部附属病院  
 目的：医学の教育及び研究の目的をもって，患者の診療を行うところとする。

所在地：弘前市大字本町53番地  
 設置年月：昭和24年5月  
 規模等：土地 94,511㎡，建物 74,320㎡

名称：医学研究科附属脳神経血管病態研究施設  
 目的：脳神経疾患の成因・病態の解明，診断法の確立，治療・社会復帰促進などに関する研究の推進を目指す。

所在地：弘前市大字在府町5番地  
 設置年月：平成11年4月  
 規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属高度先進医学研究センター  
 目的：プロジェクト型研究施設，共通機器施設としての機能を備え，疾病発生のメカニズムを分子レベルで解明し，実際の臨床の場に還元できるような研究を推進することを目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地  
 設置年月：平成17年4月  
 規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属動物実験施設  
 目的：実験動物の飼育管理の充実を図り，精度の高い動物実験による高度な研究・教育の推進を目指す。

所在地：弘前市大字在府町5番地  
 設置年月：昭和54年4月  
 規模等：建物 4,894㎡

名称：医学研究科附属子どものこころの発達研究センター  
 目的：様々な機関との連携を通し，子どものこころの問題に関する医療的支援や教育・研究活動を進め，東北地区の子どもに対する支援体制の整備や，研究拠点の創生を目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地  
 設置年月：平成26年4月  
 規模等：医学研究科内

名称：理工学研究科附属地震火山観測所  
 目的：地震観測及び火山観測並びに地震及び火山に関する研究を行い，併せて学生の地震学の実習を行うことを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地  
 設置年月：昭和56年4月  
 規模等：建物 268㎡

名称：理工学研究科附属医用システム創造フロンティア  
 目的：学内連携，地域連携による医用システムに関する研究，教育，社会貢献に関するCOC (Center Of Community：地域連携拠点)の機能を担い，研究分野では医学と理工学が協同し，地域企業との連携により新たな医用システム産業の創出を目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地  
 設置年月：平成26年4月  
 規模等：理工学研究科内

名称：農学生命科学部附属遺伝子実験施設  
 目的：動植物微生物の遺伝子及びその機能に関わる基礎研究と動植物の品種改良など遺伝子工学に基づく応用研究を推進することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地  
 設置年月：平成5年4月  
 規模等：建物 1,527㎡

名称：農学生命科学部附属生物共生教育研究センター  
目的：フィールドサイエンス教育及び研究の拠点施設として、青森県の基幹産業である農業を教育・研究の両面から活性化し、地域の優れた人材、資源、技術、環境を地域から日本全国または世界へと発信することを目的とする。

所在地：（藤崎農場）南津軽郡藤崎町大字藤崎下袋7番地1  
（金木農場）五所川原市大字金木町芦野84番地  
（深浦実験所）西津軽郡深浦町大字吾妻沢173番地

設置年月：（藤崎農場）平成12年4月  
（金木農場）平成12年4月  
（深浦実験所）平成12年4月

規模等：（藤崎農場）土地 142,607㎡、建物 2,391㎡  
（金木農場）土地 358,798㎡、建物 4,806㎡  
（深浦実験所）土地 798㎡、建物 165㎡

名称：農学生命科学部附属白神自然環境研究センター  
目的：本学の教育、研究、社会連携による地域貢献の推進を図ることを目的とする。

所在地：中津軽郡西目屋村大字川原平大川添101番地1

設置年月：平成22年10月

規模等：土地 178,560㎡、建物 255㎡

（学内共同教育研究施設）

名称：総合情報処理センター

目的：情報処理システムを整備運用し、本学における教育、研究、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供するとともに、効率的な情報処理を行うことを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地

設置年月：平成6年6月

規模等：建物 2,351㎡

名称：生涯学習教育研究センター

目的：生涯学習に関する教育（医学及び保健に関することを含む。）及び研究を行い、本学の教育研究の進展と地域における生涯学習の振興に資することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地

設置年月：平成8年5月

規模等：弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大内

名称：保健管理センター

目的：本学学生等及び職員の保健管理に関する専門的業務の実施に当たることがを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町1番地

設置年月：昭和42年6月

規模等：建物 477㎡

名称：アイソトープ総合実験室

目的：放射性同位元素を使用する教育研究及び放射性同位元素の使用に関する安全管理を行うとともに、一般社会に対する放射線障害の防止に関する啓発を行うことを目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：平成11年10月

規模等：医学部内

名称：機器分析センター

目的：有機・無機物質の組成分析及び構造解析並びに機能性素材・生体試料等の形態観察及び物性計測並びに冷媒製造を含む低温科学に必要な大型機器の効率的及び積極的利用を図り、本学の研究教育の進展に資するとともに学外からの利用の要望に積極的に対応し、地域社会への貢献を目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地

設置年月：平成15年9月

規模等：弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大内



	<p> 名 称： 出版会  目 的： 学術関連図書及び教科書の刊行・頒布を主たる事業とし、本学の研究とその成果の発表を助成するとともに、我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することを目的とする。  所 在 地： 弘前市大字文京町1番地  設置年月： 平成16年6月  規 模 等： 附属図書館（本館）内 </p> <p> 名 称： 資料館  目 的： 本学における歴史的、博物的、学術的資料を展示、保存及び整理し、教育研究及び学習活動に資するとともに、地域社会の教育文化の発展に寄与することを目的とする。  所 在 地： 弘前市大字文京町1番地  設置年月： 平成24年10月  規 模 等： 附属図書館（本館）内 </p>	
--	---	--

教育課程等の概要																	
（医学部心理支援科学科）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	基礎ゼミナール	1前	2					○			1						
	地域学ゼミナール	1後	2					○									兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0			—			1	0	0	0	0		兼1
ローカル科目	青森の行政	1前		2				○									兼1
	青森の経済・産業	1前		2				○									兼1
	青森の文化	1前		2				○									兼2 オムニハス
	青森の歴史	1前		2				○									兼2
	青森の芸術	1前		2				○									兼1
	青森の民俗・芸能	1前		2				○									兼1
	青森の自然	1前		2				○									兼4 オムニハス
	小計（7科目）	—	0	14	0			—			0	0	0	0	0		兼11
グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2				○									兼1
	国際地域	1後		2				○									兼1
	比較文化	1後		2				○									兼1
	世界の芸術・芸能	1後		2				○									兼1
	地球環境	1後		2				○									兼4 オムニハス
	グローバルヘルス	1後		2				○									兼5 オムニハス
	日本	1後		2				○									兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0			—			0	0	0	0	0		兼14
学部志趣志向科目	青森の多様性と活性化	2前		2				○									兼1
	青森の食と産業化	2前		2				○									兼4 オムニハス
	市民参加と地域づくり	2前		2				○									兼1
	青森エクスカーション	2前		2							1						兼1
	地域プロジェクト演習	2前		2													兼1
	小計（5科目）	—	0	10	0			—			0	1	0	0	0		兼7
社会・文化	暮らし・文化	1前		2				○									兼2 オムニハス
	思想	1前		2				○									兼1
	言語学の世界	1前		2				○									兼1
	文学	1前		2				○									兼1
	芸術	1前		2				○									兼1
	政治経済・社会	1前		2				○									兼1
	法と社会A	1前		2				○									兼1
	法と社会B	1前		2				○									兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0			—			0	0	0	0	0		兼9
自然・科学	環境と生活	1前		2				○									兼2 オムニハス
	工学の世界	1前		2				○									兼1
	農学の世界	1前		2				○									兼2 オムニハス
	数学の世界	1前		2				○									兼1
	物理学の世界	1前		2				○									兼1
	化学の世界	1前		2				○									兼1
	生物学の世界	1前		2				○									兼3 オムニハス
	情報処理入門A	1前		2				○									兼1
	情報処理入門B	1前		2				○									兼1
	小計（9科目）	—	0	18	0			—			0	0	0	0	0		兼14
人間・生命	人間の尊厳	1前		2				○									兼1
	心理学の世界	1前		2				○									兼1
	メンタルヘルス	1前		2				○									兼4 オムニハス
	生活と健康	1前		2				○									兼4 オムニハス・共同（一部）
	医学・医療の世界	1前		2				○									兼2 オムニハス
	情報と健康・医学	1前		2				○									兼2 オムニハス
	運動と健康A	1前		2				○									兼3 オムニハス
運動と健康B	1前		2				○									兼3 オムニハス	
	小計（8科目）	—	0	16	0			—			0	0	0	0	0		兼18
教養キャリア	キャリア形成の基礎	1後	2					○									兼1
	キャリア形成の発展	2・3前	2					○			1						兼1
	キャリアデザイン	2前	2					○									兼1
	小計（3科目）	—	2	4	0			—			0	1	0	0	0		兼2

英	Listening(初級)	1前	2			○														兼1	
	Listening(中級)	1前	2																	兼1	
	Listening(上級)	1前	2			○														兼1	
	Reading(初級)	1前	2			○														兼1	
	Reading(中級)	1前	2			○														兼1	
	Reading(上級)	1前	2			○														兼1	
	Speaking(初級)	1後	2			○														兼1	
	Speaking(中級)	1後	2			○														兼1	
	Speaking(上級)	1後	2			○														兼1	
	Writing(初級)	1後	2			○														兼1	
	Writing(中級)	1後	2			○														兼1	
	Writing(上級)	1後	2			○														兼1	
	Integrated A(国際共通語としての英語)	2前	2			○														兼1	
	Integrated B(一般学術目的の英語) Level 1	2後	2			○														兼1	
	Integrated B(一般学術目的の英語) Level 2	3前	2			○														兼1	
	Integrated C(キャリア英語)	3前	2			○														兼1	
小計(16科目)	—	0	32	0		—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼8		
多 言 語	ドイツ語 I	1前	4			○														兼2	
	ロシア語 I	1前	4			○														兼1	
	中国語 I	1前	4			○														兼4	
	朝鮮語 I	1前	4			○														兼1	
	ドイツ語 II	1後	4			○														兼2	
	ロシア語 II	1後	4			○														兼1	
	中国語 II	1後	4			○														兼1	
	朝鮮語 II	1後	4			○														兼1	
小計(8科目)	—	0	32	0		—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼10		
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	心理学概論	1前	2			○			4	4									兼1	
		公認心理師の職責	1後	2			○			1											
		臨床心理学	1後	2			○					1									
		心理学研究法	1後	2			○					1									
		心理学実験	2前	2					○		1										
		心理統計法	2後	2			○				1										
	専 門 基 礎 科 目	医学概論	1前	2			○				1										
		保健学概論	1前	1			○														兼8
		コミュニケーション論	1前	1	1		○														兼2
		早期体験実習(多職種連携)	1後	1					○		2										共同
		心理支援科学英語講読基礎	2前	2					○		1										
		人体形態学	2前	2			○														兼2
		人体機能学	2前	2			○														兼1
		人体病理学	2後	2			○														兼1
		運動学	2後	2			○														兼1
		言語療法概論	3後	1			○														兼2
		保健学概論演習	4後	1					○												兼5
小計(17科目)	—	24	5	0		—			4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	兼20		
専 門 応 用 科 目	心 理 系 科 目	知覚・認知心理学	2前	2			○			1											
		感情・人格心理学	2前	2			○					1									
		発達心理学 I	2前	2			○					1									
		学習・言語心理学	2後	2			○					1									
		神経・生理心理学	2後	2			○						1								
		発達心理学 II	2後	2			○						1								
		健康・医療心理学	2後	2			○					1									
		臨床心理学演習 I	2後	1					○		1										
		障害者・障害児心理学	3前	2			○				1										
		心理アセスメント	3前	1						○	1	1									兼1
		心理学的支援法 I	3前	2			○				1	1									兼1
		福祉心理学	3前	2			○					1	1								
		教育・学校心理学	3前	2			○					1	1								
		臨床心理学演習 II	3前	1					○				1								
		社会心理学	3後	2			○														兼1
		心理学的支援法 II	3後	2			○					1									
		司法・犯罪心理学	3後	2			○														兼1
		産業・組織心理学	3後	2			○						1								
	関係行政論	3後	2			○					1										
	心理学基礎研究	3通	2					○			2									共同	
	臨床心理学実習	3通	2						○		1	3								兼1	
	専 門 基 礎 科 目	精神医学	2前	2			○				1										
		臨床栄養学	2前	2			○														兼2
		老年看護学概論	2前	1			○														兼1
		作業療法概論	2前	2			○														兼1
		心理支援科学英語講読応用	2後	2					○		1										
		心身医学	2後	2			○				1										
薬理学		2後	2			○														兼1	
衛生学・公衆衛生学		2後	2			○														兼1	
疫学		2後	2			○														兼1	
老年看護学方法論	2後	1			○														兼1		

	医療リスクマネジメント	3前	1			○									兼0	オムニバス
	発達小児科学	3前		2		○				1					兼2	オムニバス
	医療情報学	3前		1		○									兼2	オムニバス
	保健医療心理アセスメント	3後	1				○				2				兼1	オムニバス
	保健医療心理支援演習	3後	1				○								兼1	集中
	慢性疾患学	3後		2		○				1						
	生命倫理学	4前	2			○				1						
	救急・蘇生医学	4後		1		○									兼1	
	保健医療地域支援実習	4通	2					○		1	2					オムニバス
実践系科目	教育系科目	教育原理	2前		2		○								兼1	集中
	養護学概論	2前		2		○									兼1	集中
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	3前		2		○									兼2	集中, オムニバス
	健康教育概論	3後		2		○									兼0	オムニバス
	幼児理解と教育相談	3後		2		○									兼1	集中
	教職入門	3通		1				○							兼1	集中
	福祉系科目	社会福祉学	2前		1		○								兼1	集中
	セルフケア論	2前		1			○								兼1	
	保健医療福祉行政論	2後		1			○								兼1	
	社会保障論	4後		1			○								兼1	
セクシュアリティ論	4後		1			○								兼1		
産業系科目	経営学入門	2前		2		○								兼1		
経営戦略論	2後		2			○								兼1		
経営管理論	3前		2			○								兼1		
経営組織論	3後		2			○								兼1		
司法系科目	刑事司法論	2後		2		○								兼1		
法学特殊講義	3後		2			○								兼1		
	小計 (57科目)	—	48	49	0	—				4	4	0	0	0	兼38	
卒業研究	臨床心理学基礎研究	3通	2				○			2	4					
	臨床心理学研究	4通	2				○			2	4					
	卒業研究	4通	4				○			2	4					
	小計 (3科目)	—	8	0	0	—				2	4	0	0	0	0	
合計 (150科目)		—	86	210	0	—				4	4	0	0	0	兼137	
学位又は称号	学士 (心理学)	学位又は学科の分野				文学関係, 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
教養教育科目34単位, 専門教育科目93単位以上 (専門科目85単位 (うち専門応用科目の医学・保健医療系科目13単位, 実践系科目6単位), 卒業研究8単位) を修得し, 127単位以上修得すること。						1 学年の学期区分			2 学期							
						1 学期の授業期間			1 5 週							
						1 時限の授業時間			9 0 分							

教育課程等の概要																		
(医学部心理支援科学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	基礎ゼミナール	1前	2					○			1							
	地域学ゼミナール	1後	2					○									兼1	
	小計 (2科目)	—	4	0	0			—		1	0	0	0	0	0		兼1	
	ローカル科目	青森の行政	1前		2			○										兼1
		青森の経済・産業	1前		2			○										兼1
		青森の文化	1前		2			○										兼1
		青森の歴史	1前		2			○										兼2 オムニハス
		青森の芸術	1前		2			○										兼1
		青森の民俗・芸能	1前		2			○										兼1
		青森の自然	1前		2			○										兼4 オムニハス
	小計 (7科目)	—	0	14	0			—		0	0	0	0	0	0		兼11	
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2			○										兼1
		国際地域	1後		2			○										兼1
		比較文化	1後		2			○										兼1
世界の芸術・芸能		1後		2			○										兼1	
地球環境		1後		2			○										兼4 オムニハス	
グローバルヘルス		1後		2			○										兼5 オムニハス	
日本		1後		2			○										兼1	
小計 (7科目)	—	0	14	0			—		0	0	0	0	0	0		兼14		
地域部志向境界型科目	青森の多様性と活性化	2前		2			○										兼1	
	青森の食と産業化	2前		2			○										兼4 オムニハス	
	市民参加と地域づくり	2前		2			○										兼1	
	青森エクスカージョン	2前		2				○			1							
	地域プロジェクト演習	2前		2				○									兼1	
	小計 (5科目)	—	0	10	0			—		0	1	0	0	0	0		兼7	
社会・文化	暮らし・文化	1前		2			○										兼2 オムニハス	
	思想	1前		2			○										兼1	
	言語学の世界	1前		2			○										兼1	
	文学	1前		2			○										兼1	
	芸術	1前		2			○										兼1	
	政治経済・社会	1前		2			○										兼1	
	法と社会A	1前		2			○										兼1	
	法と社会B	1前		2			○										兼1	
	小計 (8科目)	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	0		兼9	
自然・科学	環境と生活	1前		2			○										兼3 オムニハス	
	工学の世界	1前		2			○										兼1	
	農学の世界	1前		2			○										兼2 オムニハス	
	数学の世界	1前		2			○										兼1	
	物理学の世界	1前		2			○										兼1	
	化学の世界	1前		2			○										兼1	
	生物学の世界	1前		2			○										兼3 オムニハス	
	情報処理入門A	1前		2			○										兼1	
	情報処理入門B	1前		2			○										兼1	
	小計 (9科目)	—	0	18	0			—		0	0	0	0	0	0		兼14	
人間・生命	人間の尊厳	1前		2			○										兼1	
	心理学の世界	1前		2			○										兼1	
	メンタルヘルス	1前		2			○										兼4 オムニハス	
	生活と健康	1前		2			○										兼4 オムニハス・共同(一部)	
	医学・医療の世界	1前		2			○										兼2	
	情報と健康・医学	1前		2			○										兼2 オムニハス	
	運動と健康A	1前		2			○										兼3 オムニハス	
	運動と健康B	1前		2			○										兼3 オムニハス	
	小計 (8科目)	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	0		兼18	
教育キャリア	キャリア形成の基礎	1後	2				○										兼1	
	キャリア形成の発展	2・3前		2			○			1								
	キャリアデザイン	2前		2			○										兼1	
	小計 (3科目)	—	2	4	0			—		0	1	0	0	0	0		兼2	
英語	Listening(初級)	1前		2				○									兼1	
	Listening(中級)	1前		2				○									兼1	
	Listening(上級)	1前		2				○									兼1	
	Reading(初級)	1前		2				○									兼1	
	Reading(中級)	1前		2				○									兼1	

	Reading(上級)	1前		2			○								兼1
	Speaking(初級)	1後		2			○								兼1
	Speaking(中級)	1後		2			○								兼1
	Speaking(上級)	1後		2			○								兼1
	Writing(初級)	1後		2			○								兼1
	Writing(中級)	1後		2			○								兼1
	Writing(上級)	1後		2			○								兼1
	Integrated A(国際共通語としての英語)	2前		2		○									兼1
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後		2		○									兼1
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前		2		○									兼1
	Integrated C(キャリア英語)	3前		2		○									兼1
	小計(16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8
多 言 語	ドイツ語 I	1前		4		○									兼2 オムニバース
	ロシア語 I	1前		4		○									兼1
	中国語 I	1前		4		○									兼3 オムニバース
	朝鮮語 I	1前		4		○									兼1
	ドイツ語 II	1後		4		○									兼3 オムニバース
	ロシア語 II	1後		4		○									兼1
	中国語 II	1後		4		○									兼1
	朝鮮語 II	1後		4		○									兼1
小計(8科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	
合計(73科目)		—	6	156	0	—			1	2	0	0	0	0	兼89

教育課程等の概要																
(医学部心理支援科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専門基礎科目	心理学概論	1前	2			○			4	4					オムニバース
		公認心理師の職責	1後	2			○			1						
		臨床心理学	1後	2			○				1					
		心理学研究法	1後	2			○			1						
		心理学実験	2前	2					○	1						
		心理統計法	2後	2				○		1						
	医学・保健医療系科目	医学概論	1前	2				○		1						
		保健学概論	1前	1				○								兼8 オムニバース
		コミュニケーション論	1前		1			○								兼2 オムニバース
		早期体験実習 (多職種連携)	1後	1					○	2						共同
		心理支援科学英語講読基礎	2前	2					○	1						
		人体形態学	2前	2				○								兼2 オムニバース
		人体機能学	2前	2				○								兼1
		人体病理学	2後	2				○								兼1
		運動学	2後		2			○								兼1
		言語療法学概論	3後		1			○								兼2 オムニバース
		保健学概論演習	4後		1				○							兼5 オムニバース
小計 (17科目)	—	24	5	0		—		4	4	0	0	0		兼20		
専門応用科目	心理系科目	知覚・認知心理学	2前	2			○			1						
		感情・人格心理学	2前	2			○				1					
		発達心理学Ⅰ	2前	2			○				1					
		学習・言語心理学	2後	2			○					1				
		神経・生理心理学	2後	2			○					1				
		発達心理学Ⅱ	2後	2			○					1				
		健康・医療心理学	2後	2			○			1						
		臨床心理学演習Ⅰ	2後	1				○		1						
		障害者・障害児心理学	3前	2			○			1						
		心理アセスメント	3前	1					○	1	1					オムニバース
		心理学的支援法Ⅰ	3前	2				○		1	1					オムニバース
		福祉心理学	3前	2				○			1					
		教育・学校心理学	3前	2				○			1					
		臨床心理学演習Ⅱ	3前	1					○			1				
		社会心理学	3後	2				○				1				兼1
		心理学的支援法Ⅱ	3後	2				○			1					
		司法・犯罪心理学	3後	2				○								兼1
	産業・組織心理学	3後	2				○				1					
	関係行政論	3後	2				○			1						
	心理学基礎研究	3通	2					○		2					共同	
	臨床心理学実習	3通	2						○	1	3				オムニバース	
	医学・保健医療系科目	精神医学	2前	2				○		1						
		臨床栄養学	2前		2			○								兼2 オムニバース
		老年看護学概論	2前		1			○								兼1
		作業療法概論	2前		2			○								兼1
		心理支援科学英語講読応用	2後		2				○	1						
		心身医学	2後		2			○		1						
		薬理学	2後		2			○								兼1
		衛生学・公衆衛生学	2後		2			○								兼1
		疫学	2後		1			○								兼1
		老年看護方法論	2後		1			○								兼1
		医療リスクマネジメント	3前		1			○								兼6 オムニバース
		発達小児科学	3前		2			○			1					
医療情報学		3前		1			○								兼2 オムニバース	
保健医療心理アセスメント		3後		1				○			2				オムニバース	
保健医療心理支援演習		3後		1				○							兼1 集中	
慢性疾患学		3後		2			○			1						
生命倫理学	4前		2			○			1							
救急・蘇生医学	4後		1			○								兼1		
保健医療地域支援実習	4通		2					○	1	2				オムニバース		
実践系科目	教育原理	2前		2			○								兼1 集中	
	養護学概論	2前		2			○								兼1	
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	3前		2			○								兼2 集中, オムニバース	
	健康教育概論	3後		2			○								兼6 オムニバース	
	幼児理解と教育相談	3後		2			○								兼1	

	教職入門	3通		1				○											兼1	集中
福祉系科目	社会福祉学	2前		1				○											兼1	集中
	セルフケア論	2前		1				○											兼1	
	保健医療福祉行政論	2後		1				○											兼1	
	社会保障論	4後		1				○											兼1	
産業系科目	セクシュアリティ論	4後		1				○											兼1	
	経営学入門	2前		2				○											兼1	
	経営戦略論	2後		2				○											兼1	
	経営管理論	3前		2				○											兼1	
司法系科目	経営組織論	3後		2				○											兼1	
	刑事司法論	2後		2				○											兼1	
	法学特殊講義	3後		2				○											兼1	
	小計 (57科目)	—	48	49	0			—		4	4	0	0	0	0	0	0	0	兼38	
卒業研究	臨床心理学基礎研究	3通		2				○		2	4									
	臨床心理学研究	4通		2				○		2	4									
	卒業研究	4通		4				○		2	4									
	小計 (3科目)	—	8	0	0			—		2	4	0	0	0	0	0	0	0		
合計 (77科目)		—	80	54	0			—		4	4	0	0	0	0	0	0	0	兼56	



授 業 科 目 の 概 要			
(医学部心理支援科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 スタディスキル導入科目	基礎ゼミナール	<p>基礎ゼミナールの最大の目的は、学生の主体的・能動的な学習の能力を形成することです。主体的・能動的学習とは、自ら課題を設定し、その課題に対して自分自身、そして社会や学会が納得できるような解を模索していくことです。大学生活そして社会に出てからも主体的・能動的学習は常に求められます。主体的・能動的学習の能力を養うためには、拙くても良いし、失敗しても良いので、まずは主体的・能動的学習に挑戦し、実際に経験してみることが大事です。そして学習の過程や結果を学習記録簿を作成して、学習を自ら管理していく習慣を確立していけば、徐々に主体的・能動的学習の力が育まれていきます。そのためにも安全で健康的な学生生活を送るための基本ルールを身につけることや、学生相互や教員との円滑なコミュニケーションを育むことが望まれます。</p> <p>そこで基礎ゼミナールは、少人数クラスを編成し、教員の支援のもとで、学生が自ら分析や調査、討論、発表等を行う「ゼミナール方式」を採用し、主体的・能動的学習を実践するための基礎を築くよう、次の①～⑤の到達目標の達成に向けて学習していきます。</p> <p>①主体的・能動的学習の体験 ②初歩的な研究倫理観の涵養 ③グループワークの体験（ブレインストーミング、KJ法） ④資料（情報）の検索・収集・整理、および発表 ⑤弘前大学における学生生活の基本ルールの体得①主体的・能動的学習の態度を獲得すること</p>	
	地域学ゼミナール	<p>異なる学問分野を学んでいる学生6人程度ずつのチーム編成を行い、チームごとに弘前や津軽地方・青森県の地域課題をテーマとした問題解決学習（PBL：Problem Based Learning）を体験してもらいます。</p> <p>この体験を通じ、異分野のメンバーで構成されたチームの中で、多面的な視点や考え方があることへの認識を深め、個人・チームで主体的かつ能動的に活動する基礎的な力を培います。また、活きた地域の問題の解決に取り組むことで、問題解決の奥深さや難しさ、面白さを肌で感じ、地域の問題解決への意欲を高めます。</p> <p>そして、基礎ゼミナールで培った「大学での学びの基礎的な力」、いわゆるスタディスキル（自主的な学習態度、情報の検索・収集・整理、課題発見能力、文章構成力・発表能力・討論能力など）を活用し向上させる学習を進めます。</p>	
	ローカル科目 青森の行政	<p>弘前市の行政の活動をはじめとして、他の自治体の事例や、地方自治に関する一般的な事柄についても学びます。地方自治への関心を深めること、地方自治について多面的に考えること、関心を持ったテーマについて調べ、考え、表現することを目標にし、弘前市の歴史、身近な問題（水道、ごみ処理など）、まちづくり（りんごのまちづくり、都市計画、中心市街地活性化など）、地方自治体の持続可能性（財政、行政改革、人口減少対策、市町村合併など）、住民の政治参加などについて議論し、行政のあり方をまとめることについて学習します。</p>	
	青森の経済・産業	<p>青森県の経済や産業について、現状と課題、産業の機能や役割、地域社会を構成するもの、地域の「ひと」、イノベーション、一次産業、金融の機能と役割、行政の機能と役割、大学と知財化戦略、都市の再編成と地域活性化、観光まちづくりと地域活性化、地域間連携などの構成要素に関する知識を得て、自分の将来と地域との関わり合いについて自ら考え、説明することが出来るように学習していきます。</p> <p>地域を構成する要素の特性を学び、地域社会が抱えている問題を解決するための方法について考え、青森県の経済事情、商業、サービスの役割を客観的に理解できる力量の修得が得られるように学習します。</p>	

青森の文化	<p>衣服材料の構造や性質を知り、適切な管理方法、衣服に必要な機能、自身の衣生活を見直す知識を身につけます。また、青森の伝統的な手工芸を知り、それらが生まれた背景を考えます。具体的には、衣服の起源、衣服の色彩が与える印象、衣服材料の構造と性質、衣服に必要な機能と装い方、衣服の汚れと洗浄について、青森県の地域性を考慮した知識を身につけます。</p> <p>また、青森特産物である「こぎん刺し」について、成り立ち、刺し方、裂き織りなどこぎん刺しに見る青森の特性、染色を用いた青森県の特産物などを学習していきます。また、このことを学びながら、青森県の環境についても学習します。</p>	
青森の歴史	<p>近年、歴史資料としての写真への注目が高まっています。加えてデジタルカメラやスマートフォンの普及が、記録する方法としての写真の可能性を大きく広げてきました。歴史上、これほどまでに多くの人々が写真に親しみ、写真を使って発信する時代はなかったといえます。</p> <p>この授業では、写真を用いて青森の近代の歴史いくつかの側面を読み解きます。さらに自分自身で写真を撮影し、そこからどのようなことを読み取ることができるのかについて考察することで、受講者の皆さんが「フォト・リテラシー」（写真に関する読み書き能力）を高めることを目標とします。</p> <p>具体的には、近年、北海道・東北における縄文遺跡群が世界遺産の指定をめぐって注目されていますが、原始・古代以来、青森は豊かな歴史を有し、中世には安東氏の活躍がみられ、近世では弘前藩・盛岡藩・八戸藩などで多彩な歴史と文化を育んできました。近現代では、青森県の成立以後、現代にいたる多くの異才を輩出してきました。このような青森の歴史と民俗を通じて庶民の生活にも目配りをする事によって、青森の歴史をトータルに理解・把握できるようになることを目指します</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (11 高瀬 雅弘/7回)  青森県の原始・古代、中世、近世について解説し、受講生の能力を高める工夫した指導を行います。</p> <p>(12 今泉 忠淳/8回)  青森の民俗、近代、現代について解説し、受講生の能力を高める工夫した 指導を行います。</p>	オムニバス方式
青森の芸術	<p>商品開発の基礎としてのデザイン色彩に関する事柄について、色彩に関する人間心理の基礎を含めた、商品開発における基礎システムの理解を得ることが目標になります。芸術のうち、写真術は、基礎的なこととして、19世紀に発明されましたが、写真の原理そのものは古くから知られていました。具体的には、写真メディアの技術的な理解、光を扱った自分だけの映像の獲得、小穴投影現象、カメラオブスクラ、青写真法、ネガポジ法をたどって、映像の出現と定着、PCによるスキャンと印刷の方法を学習します。</p>	

青森の民俗・芸能	尺八について、塩竈管を用いて「音が出せる」ようになること、これを第一の目標とします。そのうえで、錦風流尺八の「調」「下り葉」の2曲が吹けるようになること、これを第二の目標とします。民俗・芸能の一考察として、古今東西の各楽器を考察することにより人間文化の多様性と普遍性を理解、「人間とは何か」という視点から楽器を研究することの意義を考察します。また、各楽器が、誰が、誰に、いつ、どこで、どのように作られ、奏でられてきたかを知ることにより、青森や世界の諸文化の実相に触れていきます。また、講義に加え、津軽三味線、しの笛とフルート、スティールパン、マリンバ、グラスハーブ、ししおどし、風鈴、ささやきの壁など楽器の実演や製作をまじえて授業を進めていきます。	
青森の自然	<p>最近のわが国において食生活を巡り、栄養バランスの偏り、不規則な食事、若年層の習慣病・肥満の増加等の問題が叫ばれており、この危機的状況を改善するために2005年に政府は食育基本法を施行しました。こうした状況を踏まえ、栄養、食生活、食の安全、食料政策、食糧需給、食環境、食文化という食に纏わる事象の特徴や課題についても学び、食育を实践する上で必要な基礎的な知識を習得することを目的としています。それに加えて、本学が立地している青森県における食と農の特色を学ぶことにより、地域での食と農の在り方について説明できるような知識を身に付けることによって、『食』に関する知識と選択する力を習得し、健全な食生活を実践する知識を得る学習を行います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (15 荒川 修/3回) 青森県における果物の栽培と利用、日本の野菜について講義し、グループ学習を指導します。 修を指導します。</p> <p>(16 松崎正敏/3回) 日本の畜産及び米について講義し、グループ学習を指導します。</p> <p>(17 丹藤雄介/6回) 食事と栄養と健康、食事と生活習慣病、日本型食生活と大学生の食生活、地域における栄養指導の実際について講義し、グループ学習を指導します。</p> <p>(59 遠藤 明/3回) 農地と肥料と環境保全、食べ残しの現状と諸課題、食育が食べ残し削減に与える効果について講義し、グループ学習を指導します。</p>	オムニバス方式
グローバル科目 グローバル社会・経済	グローバル化が進む中でアジアやアフリカの新興国が目覚ましい発展を遂げる一方、開発途上国では貧困、感染症、さらには難民の問題など様々な課題があることを認識し、国際協力に関する国際的な目標や枠組みについて理解をした上で、インフラ、教育、保健などの国際協力の事例を取り上げ学習していきます。国家による援助にとどまらず、国際機関や民間企業など様々なアクターによる国際協力について検討します。また、JICAの支援によるインドネシアやサウジアラビアを始めとして、東南アジアや南アジア、中東、アフリカの各国の経済・社会・文化・宗教などの事情について学び、国際協力の理念・歴史・仕組みを理解できるようになること、国際協力の視点から国際社会を理解できるようになること、開発途上国の経済・社会・文化に関する理解を深めることができるように学習を進めていきます。	

国際地域	<p>日本のすべての高校生は世界史を学んでいます。世界史とは覚えるものと思っている人が多くいます。しかし、本来は覚えるべき確固たる世界史というものは存在していません。本当はそれぞれが自分なりの世界史像を描くことが必要なのです。そこで、高校で学んできた世界史を、視点を変えながらもう一度眺め直してみます。高校世界史をクリティカルに考えることから始まり、西アジア・地中海世界の古代～なぜ世界史の教科書はオリエントから始まるのか～、イスラームと中世ヨーロッパ～イスラーム世界がヨーロッパ世界に及ぼした影響とは～、遣唐使の時代からモンゴル帝国～東アジアのなかの日本を考える～、近世ヨーロッパと世界～大航海のもたらした影響・その光と影を考える～、近代ヨーロッパとアジア世界～アジアへの憧れから進出～、20世紀の世界～帝国主義と民族問題を考える～といった順に学習し、西欧中心の世界史像を批判的に検討し、各地域に暮らす人々の視点から捉え、多角的に世界史を見つめ直すことで、今までとは違った世界史の姿が描き出せるように学習していきます。</p>	
比較文化	<p>世界の映画の歴史をその誕生期から現在まで、いわゆる「芸術映画」や「商業映画」といわれることなどを含めて、歴史的に学習を進め、最後に舞台演劇との違いについても考察します。授業は、映画に関する紹介、映画の誕生（世界最初の有料スクリーン投射の映画など）、フランスからアメリカへ（第一次世界大戦と映画人達、さらにエジソンの特許告発などから逃れて）、5大メジャーについて（大映画会社の組織が誕生し、制作から興行までを独占）、大恐慌時代の映画（安い娯楽を求めて）、アメリカ映画の大発展期（世界の映画はアメリカを中心に大衆娯楽映画の時代）、アメリカ映画の転換期（アメリカ映画の限界）、ヨーロッパの映画界の様子（大衆娯楽路線ではない、文芸映画を中心に）、テレビ時代の到来と共存（大衆の映画離れとTV界との共存路線）、各種メディアと映画（映画館の上映とは別の世界）、現在の映画界（インターネット及び、パッケージメディアと劇場映画）、世界の各種映画賞、（アメリカアカデミー賞と世界的な映画の賞）、フィルムからデジタルへ（フィルムが使われない映画制作とデジタル撮影の功罪）、映画の中の技術（制作者の意図と撮影方法）、映画と舞台芸術（生の目とカメラの目）との順による講義で、世界の映画の通史を学びます。そのあとに、個々の地域及び国の事例をより深く考察し、それぞれの映画の特徴を考えます。特に映画の誕生した国と発展した国の違いについては、誕生から現在までを通して考察します。世界の主な映画がどのようにして誕生し、今日の発展を得たか考察し、各地域ごとの内容の違いなども論じられることを目標に学習します。</p>	
世界の芸術・芸能	<p>世界遺産に指定されている、特に西洋美術について、過去の建築や美術品を身近に感じ、共感していくことにより、また、過去の文化の成果と我々現代人とのつながりを感じ取ることにより、大まかな西洋美術の流れはすっかり頭に入り、生きた知識となつて、あなたの生きる糧となり、生涯を豊かなものにするための学習を進めていきます。古代オリエント（エジプト・メソポタミア）から始まり、ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、マニエリスム、北方ルネサンス、バロック、ロココ、19世紀、現代と授業を進めて、視覚芸術作品の見方（楽しみ方）、古代から現代までの美術の流れ、重要作品のある程度まとまった知識を得ることを目標に学習します。</p>	

地球環境	<p>経済成長や人口増大により、人類は20世紀に深刻な環境問題に直面しました。環境問題の解決は21世紀の人類の重要な課題です。この授業では、専門分野の異なる多くの教員から、現代の様々な環境問題の発生源や実態、克服にむけた取り組みを自然科学と社会科学の両面にわたって学ぶことにより、地球規模の環境問題について深く考える力を身につけます。専門分野の異なる5人の教員が社会科学と自然科学にまたがる下記の内容を分担してカバーします。(1) 発展途上国と環境問題（人口増加、森林破壊）(2) 気候変動と環境汚染へのアプローチ（地球温暖化、オゾン破壊、酸性雨）(3) 水資源・食料生産へのアプローチ（砂漠化、土壌侵食、食糧問題）(4) 自然生態系破壊へのアプローチ（海洋汚染、森林減少、野生生物の絶滅）(5) 人類を含む生態系へのアプローチ（生物資源枯渇、外来種、環境保全）(6) 環境問題に関する法的整備（排出量取引、環境税）以上により、21世紀の地球環境問題について、その実態や克服に向けた取組を包括的に学び、解決策について深く考える力を養います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (19 長南幸安/2回)  大気及び水質の環境基準の設定と基準が達成されているかどうかの評価方法、大気環境及び水質環境の保全への取り組みについて、また、環境問題を解決するため、様々な試みを紹介しながら、環境問題解決のための制度的な問題について解説します。</p> <p>(20 谷田貝亜紀代/3回)  地球大気の大気構造とそれを維持するためのエネルギー収支、地球温暖化とオゾンホールメカニズムについて講義し、地球温暖化に伴う今後の気候変化について解説します。</p> <p>(62 石田清/4回)  生物多様性の現状を解説するとともに、希少種保全のための理論的背景と保全活動の具体例について解説します。</p> <p>(63 松山信彦 /6回)  食糧生産に関わる環境負荷と環境汚染の実態、また大きな問題である放射性Csの土壌中での挙動について、また、環境問題を解決するため、様々な試みを紹介しながら、環境問題解決のための制度的な問題について解説します。</p>	オムニバス方式
グローバルヘルス	<p>最新医学の進歩、医療技術の進歩の状況を基に、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を解説し、グローバルヘルスの政策とガバナンス、イノベーション、保健関連ミレニアム開発目標（母体、新生児、小児の疾病、HIV/エイズ、結核やマラリアなど）、疾患サーベイランスなどの知識を得ていきます。背景にある学問的裏付けや限界、問題点を含めた幅広い理解を得ることを目標に学習していきます。各分野の専門科が、医療と医学の現状・限界・問題点に関する情報を提供します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (64 松坂方士/6回)  最新医学の進歩、医療技術の進歩の状況とグローバルヘルスについて解説します。</p> <p>(65 鈴木幸彦 修/2回)  グローバルヘルスの政策とガバナンスについて解説します。</p> <p>(66 照井君典/2回)  グローバルヘルスと保健関連ミレニアム開発について解説します。</p> <p>(97 皆川正仁 /2回)  グローバルヘルスのイノベーションについて解説します。</p> <p>(98 嶋村則人/3回)  グローバルヘルスと疾患サーベイランスなどについて解説します。</p>	オムニバス方式

	日本	<p>ブレースメントテストで日本語が中級以上と判定された留学生が参加し、日本人学生との国際交流を進めていきます。この授業は、「やさしい日本語」で行われます。最初の数回では、日本人学生は、自分の会話を字幕的に見せることを目的として、スマホでGoogle音声入力（日本語）を使う予定です。留学生と日本人学生が、課題達成型のテーマを与えられ、チームでトーナメント形式で競います。日本人・留学生ともに学習中である言語を用い、国際交流を通して異文化コミュニケーション能力を高める学習を進めていきます。</p>	
学部 越境型 地域志向科目	青森の多様性と活性化	<p>青森県は雪国であるという条件を決してハンディキャップとするのではなく、むしろ一つの武器としてまちづくりや地域計画に活用していくことを探ります。その取組を行っている自治体が、国内にいくつかあるので、その紹介を含めながら、雪国の都市計画の新たな可能性を探っていきます。具体的には、雪国の活性化、雪国の住まい・まち行政施策から見た雪国活性化、雪国ならではのまちづくり、雪と向き合う新しい仕組みー地域通貨ー、弘前市の雪対策の実態、雪国学などを学び、青森や津軽などの雪とともに暮らす生活を楽しいものにするための意識改革を目指すための学習を進めていきます。</p>	
	青森の食と産業化	<p>「食」をビジネス・文化として捉え、食料産業政策、食品安全、食文化など食ビジネスをめぐる動きを学ぶとともに、起業、ブランド化、新技術等の観点から、様々な事例の話題を提供し、食ビジネスの実際について理解を深めるとともに、食の課題解決への貢献、食文化の側面からのアプローチも試みつつ、食ビジネス創成に必要なビジネスマインドを養成していきます。また、青森県として、地元の食料生産と消費、そして社会的・文化的問題に焦点を当て、課題解決の方策を探り、学生が自分たちの生活の中で問題を学ぶことができるようにします。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (21 杉山祐子 /4回) 食のブランド化について解説します。</p> <p>(60 諏訪淳一郎/4回) グローバルな食文化や食料産業政策などについて解説します。</p> <p>(68 近藤 史/3回) 食の新技術などについて解説します。</p> <p>(69 平井太郎/4回) 食のビジネス化や青森県の食の課題などについて解説します。</p>	オムニバス方式
	市民参加と地域づくり	<p>本授業は全国的に課題となっている若者の政治参加のあり方について学び、特に青森県の若者の政治参加の向上を考えることを目的としています。特に政治参加率が低いとされる若者の政治との関わり方について、なぜ低いのかを多面的に考察します。それに関わり、そもそも民主主義とは何か、なぜ若者が政治参加することが重要なのか、学校における政治的中立性とは何か、主権者教育はどうあるべきか、などといった現代の課題についても学習し、自分なりの回答を導き出します。その際、テレビ、新聞、SNSといったメディアによる情報の伝え方についても多面的に解釈する能力（メディア・リテラシー）を、演習を通して身に付けていきます。自分なりの回答について、青森県のみならず、全国的になぜ若者の政治参加率が低いのかを自分なりに考察し、どうすれば参加率を引き上げる（政治への関与の仕方を高める）ことができるのかを提案できるようになることや多様なメディアを介して伝えられる情報を多面的に解釈し、自らの情報発信にもそのようなものの見方を適用できるようになることを目標に学習します。</p>	

青森エクスカージョン	<p>青森県においては現在に至るまで巫者に対する信仰が存在する。本授業では、青森県に現存する巫者信仰を、フィールドワークも交え体験的に理解する。フィールドワークは、青森県における巫者信仰の歴史を踏まえ、岩木山の麓に広がる赤倉、岩木山神社、巖鬼山神社などで行う。また、現代における相談支援であるカウンセリングの基礎を理解した上で、青森県における巫者信仰とカウンセリングとの比較を文化人類学、医療人類学の視点から行う。この授業を受けて、現地調査のノウハウを身につけること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査を通して、青森の地域社会や自然について、探求していくことができるように学習を進めていきます。</li> </ul>	
地域プロジェクト演習	<p>弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合います。テーマは、①対人関係とコミュニケーション、②若者の政治参画、③青森の生活習慣（仮）です。授業では、各テーマに沿ったゲストスピーカー（弘前市役所職員など）が講義を行い、それを通して弘前市の課題を具体的に理解するだけでなく、参加している市内の大学生と一緒にグループディスカッションをおこない、地域の発展のために学生自身ができることについて考えます。この授業科目は、「大学コンソーシアムひろさき」によって運営される科目です。始めに、「対人関係とコミュニケーション」の課題、基本姿勢、伝え方や系長について学びます。次に、若者の政治参画について「選挙って何のため？」をテーマに議論します。最後に、青森の生活習慣について、生活習慣病対策について、ゲームを活用して対策を立案します。演習した結果、地域の状況を具体的に理解できるようになること、その解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになること及び各テーマに対して、自分の考えを述べるようになることを目指して学習していきます。。これは、8月下旬に実施する集中授業になります。</p>	
社会・文化  くらし・文化	<p>社会的・文化的な性差といわれる“ジェンダー”について理解し、日本における性別役割分業（担）やその成立の歴史、日本や諸外国における女性と権利などについて講義します。日頃、ジェンダーや男女共同参画に関する新聞記事等を読んでください。また、次の講義の準備として渡すプリント等を、事前に読んできてください。具体的には、“ジェンダー”とは？から始まり、ジェンダーと歴史（明治以前から戦前まで、戦後から現在まで）、女性と権利（日本国憲法にみる女性の権利とその歴史、諸外国の憲法にみる女性の権利とその歴史、「女子差別撤廃条約」にみる男女の平等）、学校・ジェンダー・男女共同参画、LGBTの理解などの講義を聞いたあと、グループ学習により、今後の男女共同参画社会を考えていきます。受講者自身の中にある“ジェンダー”に気づき、“ジェンダー視点で物事をみる”ことができることを目標に学習していきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (70 高橋俊哉/6回) “ジェンダー”とは？、ジェンダーと歴史（明治以前から戦前まで、戦後から現在まで）、女性と権利（日本国憲法にみる女性の権利とその歴史、諸外国の憲法にみる女性の権利とその歴史を講義します。</p> <p>(123 山下梓/9回) 「女子差別撤廃条約」にみる男女の平等）、学校・ジェンダー・男女共同参画、LGBTの理解などを講義します。講義のあと、グループ学習を指導します。</p>	オムニバス方式

思想	<p>この授業では、「心身二元論」という観点から西洋倫理思想史に登場する重要概念が説明され、この概念を思考の道具にして現代社会における多様な事象が読み解かれます。このとき受講生のみなさんは、哲学の問いをみずから問うことを通じて、倫理的思考を身につけることができます。また、哲学的思考の深まりを確かめるため、毎回コメント・ペーパーの記述が求められます。また、講義中に記したコメント・ペーパーを講義後に加筆および修正することで復習を行なうことが可能です。講義内容には連続性があるので、受講生は配布資料をもとにして図書館で学習内容の拡張と深化を試み、次回講義の予習とすることができます。そのつどの講義で学ばれる概念は、たとえば、(1)偶然性と生存、(2)死と良心、(3)時間と自由、(4)愛と記憶、(5)人間の定義…といったものです。複数回の講義にわたって同一概念の検討が行われます。生命倫理学・環境倫理学・技術倫理学・医療倫理学にかんする情報は適宜おりまぜられます。基本的な授業計画は、心身問題の基礎（デカルトについて）、心身問題の現在（心脳問題への展開）、DVD講義（『ブレッド・ランナー』、『サロゲート』など、心身問題の未来（生物と人工物のちがひ）、倫理的存在とは何かを学習します。</p> <p>愛し喜び、あるいは、悲しみ苦しみながら生きる人間は、誰ともとりかえのきかない人間です。こうした自分の固有性を〈他者との関わり〉が産み出しています。自己と他者とその関わりでの成り立ちを確かめる手がかりを学んでいきます。</p>	
言語学の世界	<p>一般的にスキルにはテクニカルスキルとノンテクニカルスキルとがあります。専門技術であるテクニカルスキルに対して、ノンテクニカルスキルは専門分野を問わず論理的に考え、相手にわかりやすく伝達するための技術です。医療分野だけでなく航空業界など多くの業界で広く取り入れられており、ロジカルシンキングや言語技術とも言われています。本授業では演習方式でノンテクニカルスキルについて学習し、医療での活用についても解説します。具体的には、言語技術とは？—あなたのノンテクニカルスキル度は？、相手との問答のための言語技術、問答技術演習、情報伝達のための言語技術、情報伝達技術演習1(描写分析)、情報伝達技術演習2(説明分析)、情報伝達技術演習3(報告分析)、状況認知のための言語技術、状況認知技術演習、情報分析のための言語技術、絵画の分析演習、標識とイラストの分析演習、テキストチャー解析、テキストチャー解析演習、ノンテクニカルスキル演習との順に講義と演習を交互に学んでいきます。最後に、受講生のノンテクニカルスキル度を計ります。言語技術の基本的知識の習得を通じて、論理的思考回路を身につけるとともに、大学生・社会人に要求されるコミュニケーション能力を獲得するための学習を進めます。</p>	
文学	<p>この授業では読書会（リテラチャー・サークル）という形式を用いて、本（文学）を読むことの楽しみや意味について、改めて考えてもらおうと思います。江國香織、川上弘美、小川洋子などの短編作品を用いて現代女性文学に触れるとともに、彼女たちの作品が受け容れられ読まれている理由について、また同時代文学として現代文学を読んでいく意味についても考えていきます。予習として、授業で取り扱う作品を必ず読み終えていてください。気になるところに印をつけたり、疑問に思ったことや感じたことなどをメモしたりしておくとうよいです。江國香織、川上弘美、小川洋子などの短編作品を通して、現代女性文学に触れるとともに、読書会を通して、読みを深めるための話し合いについて習得すること、読書会を通して、文学作品の工夫を味わったり考えたりできるようになること、それぞれの読書生活を豊かにする方法を見つけることを目標に学習していきます。</p>	
芸術	<p>この授業では、スケッチや写生、素描を通して、造形要素について基本を理解し、日本画の材料・用具の扱い方や基本的な技法を習得します。また、植物をモチーフとして、小品を制作します。具体的には、日本画の概念を学び、モチーフ（植物）の設定とスケッチ、写生、写生への着色、下図の検討、材料・用具の扱い方、パネルの準備、紙貼りと地塗り、絵の具の溶き方（胡粉）、トレースと骨描き、具墨、下塗りと描きおこし、着色（背景）、絵の具の理解、着色（大まかな色の重ね塗り）、着色（全体と部分）、着色（全体の見直し）、着色（細部）の順に制作を進め、最後に、各受講生の作品を仕上げ、講評会を開催して、各受講生の良いところを評価します。日本画の画材を使用し、植物をモチーフとした小品が制作できるようになることを目標として、学習を進めていきます。</p>	



政治経済・社会	<p>この授業では、初めて会計学を学ぶ受講生に財務諸表の仕組み、会計情報の活用などについて講義します。具体的には、始めに、会計学の概要や社会における会計の役割を学びます。そのあと、複式記入のルール、複式記入の実践、財務諸表のしくみ（企業会計の基本：キャッシュフローから利益へ、収益の認識と測定など）、財務諸表分析（財務諸表分析を学ぶ意義、成長性の分析など）、経営管理のための利益と原価、利益計画のための会計（経営計画・利益計画はなぜ必要なのか、大綱的利益計画と損益分岐点の計算）、意思決定のための会計（意思決定と代替案の選択、意思決定のための会計など）、意思決定に必要な原価情報、財務諸表監査と会計専門職としての公認会計士、会計のさまざまな領域などを学び、ビジネスパーソンに不可欠な会計にかかわる知識を習得します。この授業を受けて、財務諸表の構造について説明できる、経営管理のための会計の知識を活用できるように学習を進めていきます。</p>	
法と社会A	<p>この授業では、民法について、私人間の生活関係を規律した法律であること、財産関係を規律する「財産法」と家族関係を規律している「家族法」に大きく分けられることを学びます。とりわけ「財産法」は、その範囲が広く、一通り理解することが大変であることから「財産法」に焦点を当てて、その全体を概説していきます。具体的には、始めに、民法典の構造などを学びます。そのあと、民法典の歴史、民法の大原則、契約の成立、契約の有効性（契約当事者・契約成立過程における意思表示の規制、契約成立過程における意思表示・内容の規制など）、代理人による契約成立（代理総論、有権代理、無権代理、表見代理など）、契約成立に伴う物権変動（物権法の全体構造、物権変動、対抗要件など）、契約の履行（正常な履行、履行過程における牽連関係）、契約の不履行（履行強制、損害賠償、契約解除）、債権の回収（相殺、債権譲渡など）、債権の保全（債権者代位権、詐害行為取消権）、債権の担保（人的担保、物的担保）、時効による権利の得喪（時効総論、取得時効、消滅時効など）、法定債権（不法行為の成立要件と効果、特殊の不法行為、不当利得、事務管理など）を学び、民法（財産法）の全体構造や基本的な制度を理解していきます。</p>	
法と社会B	<p>この授業では、将来多くの人が教職に就くことを念頭におきつつ、日本国憲法の基本的な原理や概念を、判例や時事問題も交えて説明します。さらに、憲法問題が生活に根ざしていることを実感してもらいます。具体的には、始めに、立憲主義と憲法（Ⅰ部1章）を学びます。そのあと、逐条ごとに、人権総論（Ⅱ部1章）、包括的人権（Ⅱ部2章）、平等（Ⅱ部3章）、思想・良心の自由、信教の自由（Ⅱ部4章）、学問の自由（Ⅱ部4章）、表現の自由（Ⅱ部5章）、身体的自由権（Ⅱ部7章）、生存権（Ⅱ部8章）、教育を受ける権利、労働基本権（Ⅱ部8章）、選挙権と選挙制度（Ⅲ部1章）、国会、内閣（Ⅲ部3章・4章）、裁判所（Ⅲ部5章）、平和主義（Ⅲ部9章）、憲法改正と改憲論（Ⅲ部10章）の講義を基に立憲主義をはじめとした憲法学の基本的な概念、憲法学の基本的な論点について考察することができるように学習を進めていきます。</p>	

<p>自然・科学</p>	<p>環境と生活</p>	<p>日本は、プレート境界に位置し降水量の多く、さまざまな自然災害が発生しています。このため、地球温暖化や巨大地震の脅威が叫ばれる今、災害について理解を深め備えを施すことで災害を減らしていくことが求められています。この授業では、いくつかの自然災害の現象を例にとりて災害と防災について学びます。具体的には、自然災害と防災、日本の自然環境の特徴、東北地方太平洋沖地震津波の被害、津波想定と津波対策、河川の氾濫と災害、地震の発生と地震動、地震動の増幅、地震動による被害とその軽減策、ハザードマップの活用と課題、土砂災害の特徴一崩壊・地すべり・土石流、近年の国内外の土砂災害発生実態、北東北での土砂災害事例と原因、土砂災害へのハード対策、土砂災害へのソフト対策、住民主体で進める土砂災害の軽減などを学び、豪雨・地震などで発生する自然災害の基礎的知識及び自然災害への備えや対策についての基礎的なことについて理解していきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (24 檜垣大助/7回) 自然災害と防災等について解説します。</p> <p>(25 片岡俊一 修/3回) 地震とその対策等について解説します。</p> <p>(26 小岩直人 /5回) 津波や河川の氾濫等について解説します。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>工学の世界</p>	<p>この授業では、太陽電池、風力発電等の環境に優しいエネルギー技術について、その原理と動向を基礎から考えていきます。授業科目の前半では多様な種類の再生可能エネルギーの概観について学びます。授業科目の後半では特に太陽電池に注目し、様々な太陽電池の物理的な基礎を理解していきます。具体的には、始めに再生可能エネルギーの概要を学び、太陽電池、太陽熱発電、風力発電、バイオマス、地熱、潮汐、その他のエネルギー、シリコン太陽電池、化合物太陽電池、化合物太陽電池、有機太陽電池、ペロブスカイト太陽電池など、様々な電池について学びます。この授業を受けて、再生可能エネルギーの種類、役割とその原理について理解、説明できるように学習していきます。</p>	
	<p>農学の世界</p>	<p>この授業では、農業と環境に関して、日本の主要な穀物である米を中心に多角的に学ぶ科目です。まず、お米をめぐる生産と消費、流通、政策の現状について学びます。次に、米に関し、品質・食味・米加工品について学びます。最後に、米の生産の場である水田や農村の多面的機能（交流・文化・環境）について学びます。これらを通じて、農業生産の意義と環境との関わりについて考え、お米を作る農家の現状、お米の流通の仕組み、お米の消費構造、政策、お米は日本人にとってなぜ重要な穀物であるか、そのお米を美味しく食べたり、様々な加工食品として利用するために、どのようなお米の特性が必要なのか、農業農村の多面的機能の意味、グリーン・ツーリズムのねらいと現状、都市化による農業農村の変貌と多面的機能への影響について理解し、今後の農村活性化に対する自分の考えをまとめられるように学習していきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (27 藤崎浩幸/8回) 農業農村の多面的機能、農業生産及び食料消費等について講義します。</p> <p>(74 濱田茂樹/7回) コメの品質・食味・加工品等について講義します。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>数学の世界</p>	<p>この授業では、いろいろな分野の実際の問題を例題として、数学の活用方法として、微分・積分が実際にどのように使われ、どのようにして問題を解決するかを学びます。具体的には、数学の入門から始まり、数学の活用方法（解析学の世界へ）、Excelの活用方法、人口の予測、シミュレーションの基本形、鑑識入門、生態系（湖の浄化、感染症の流行、捕食者と被食者など）、化学反応シミュレーション、StarBow（光のドップラー効果、虹を見るなど）、空気抵抗を受けた運動、美しい形と強度－巨匠の世界、熱の伝わり方（フーリエの方法、グリーンの方法など）、このほか、いろいろな新作も用意しています。したがって、進捗に合わせて適宜変更する場合があります。自然現象のシミュレーションを通して微分方程式の解法を学び、応用できるように学習を進めていきます。</p>	
<p>物理学の世界</p>	<p>この授業では、物理が苦手な学生を対象として、物理の基礎を初歩から学びます。理系・文系に関わらず、これから物理学を学びたいという学生を対象とします。具体的には、物理学の入門から始まり、運動、力と運動、仕事とエネルギー、力と運動、仕事とエネルギーの関連、周期運動、連続体の力学、波動、周期運動、連続体の力学、波動の関連、熱と温度、電荷と電流、電磁気学、原子物理学、原子核など、身の回りで生じている物理現象の原理が分かるようになり、物理のことを嫌いにならないように学習していきます。</p>	
<p>化学の世界</p>	<p>この授業では、学生の皆さんが高校で習う主な項目、原子の構造、元素の周期律、化学結合、物質の性質、化学反応などについて学びます。理系・文系に関わらず、これから物理を学びたいという学生を対象とします。具体的には、化学の入門から始まり、物質の構造（原子の構造、化学結合、気体・液体、固体、化学反応、酸と塩基、酸化と還元など）、無機物質（非金属元素、金属）、有機化合物（有機化合物の基礎、有機化合物の種類、芳香族化合物など）、合成高分子、生体を構成する有機化合物などを学びます。原子の構造と元素の周期律、化学結合、化学反応などに関する基本的概念や法則を理解できるようになり、また、それらを日常生活と関連付けて説明できるように学習を進めていきます。</p>	
<p>生物学の世界</p>	<p>この授業では、創薬、遺伝子治療、農薬の開発や食品安全性検査など、私たちの身の回りには、生命科学に関する基礎的な研究成果が広く応用され、役に立っていること、多種多様な生物種を用いて行われている近年の生命科学研究について、微生物、植物、昆虫を例にその概要を学んでいきます。理系・文系に関わらず、これから生物学を学びたいという学生を対象とします。具体的には、生物学の入門から始まり、微生物を用いた生命科学研究（微生物とは何か？、微生物を用いた研究の過去と現在、微生物を用いた環境適応機構の解明など）、植物と植物バイオテクノロジー（植物と植物バイオテクノロジー、植物バイオテクノロジーの歴史と現在、基本技術の原理と身近な例など）、植物を用いた生命科学研究（植物研究の歴史、植物の特徴と発生のしくみ、植物を用いた研究とその応用など）、昆虫を用いた生命科学研究（昆虫とは何か？、昆虫を用いた研究の過去と現在、昆虫における後胚発生機構など）を学びます。多種多様な生物種を用いて行われている近年の生命科学研究について、それぞれの生物種を用いる利点や欠点をも含めて理解できるように、また、様々な生物種を用いて行われる研究手法について相違点と一致点を理解できるように学習を進めていきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (76 柏木明子/9回)  微生物を用いた生命科学研究について講義します。</p> <p>(77 笹部美知子/3回)  植物バイオテクノロジーを用いた生命科学研究等について講義します。</p> <p>(78 金児雄/3回)  昆虫を用いた生命科学研究等について講義します。</p>	<p>オムニバス方式</p>

情報処理入門A	<p>この授業では、これまでの復習となる情報リテラシーからスタートして、大学生活や研究・医療の分野で必要となる情報技術について演習により修得します。具体的には、情報リテラシーから始まり、Wordによる文書作成、Excelの基本操作とデータ処理、情報科学の基礎として、デジタルデータ（2進数、10進数、16進数）、文字情報、画像情報、音声情報、画像処理の基礎として、ImageJの基本操作と画像処理、生命科学・医療における画像計測・画像処理、医療情報の検索・活用技術として、統計処理の基礎、PubMedなどによる文献検索、遺伝子データベース検索などを学びます。この授業をうけて、デジタルデータの概念と情報の表現、大きいデータの取り扱いと処理（グラフ作成などを含む）ができること、画像データについての取り扱い、加工や計測ができること、医療情報（統計処理、文献検索、遺伝子データベース検索）へのアクセスと取り扱いができるように学習を進めていきます。</p>	
情報処理入門B	<p>この授業では、将来、受講者が教員になることを前提に、必要となる情報処理のスキルや情報モラル、セキュリティの基礎について、主に演習形式で学びます。ここで取り上げる情報処理のスキルとしては、検索、電子メール、文書作成、画像処理、表計算、プレゼンテーションのスライド作成、webによる情報発信などです。具体的には、始めに、実習室の使い方から始まり、Windowsの操作、情報倫理とセキュリティの基礎、電子メールの利用、インターネットを用いた情報検索の基本、Wordを用いた文章の作成・編集・印刷の基本操作、色覚多様性への対応、ペイント系ソフトを用いた画像の作成、ドロー系ソフトを用いた画像の作成、Excelを用いたデータ処理・グラフ作成・レポートの作成、Power Pointの基本操作・スライド作成、ホームページの仕組み（HTML言語）、ホームページの作成などを学びます。教員に必要な情報処理の知識を持つとともに、指定したソフトウェアを使って、レポート等の体裁が決められた文書の作成ができること、インターネットに関するセキュリティ、情報倫理等について、子供に分かりやすく説明することができること、表計算ソフト、プレゼンテーション、ホームページ作成など、教職に必要な情報技術の基礎を習得し、実際に活用することができるように学習を進めます。</p>	
人間・生命 人間の尊厳	<p>この授業では、ノーマライゼーションという視点から人間の尊厳について考えます。具体的には、始めに、この授業の方向性として、人間の尊厳について皆さんで考察します。そのあと、人間の尊厳についての歴史、医療上の人間の尊厳、人間の尊厳と研究、差別の現状、差別の構造、ハラスメントの現状、ハラスメントの構造、障害の定義、障害者観の変遷と処遇の歴史、障害と人間の尊厳命（優生思想）、障害と人間の尊厳命（命の選別）、ノーマライゼーション、バリアフリーとノーマライゼーション、障害者の社会参加、平等社会実現のための課題などを学びます。様々な人々が対等に暮らすノーマライゼーション社会、人間の尊厳をキーワードとして説明できるように学習していきます。</p>	
心理学の世界	<p>心理学は、社会生活の様々な場面で人々の心がどのように機能しているのかを実証的研究によって明らかにしてきました。本授業では、日常生活における様々な場面、特に対人関係を取り上げ、我々の心がどのように動くのかについて学んでいきます。具体的には、心理学の入門から始まり、心理学のケースとしてのステレオタイプと偏見、対人関係の量と質、大切な人との関係性、青年を取り巻く性のお話、適応基盤としての恋愛関係、不適応をもたらす恋愛関係、大切な何かを失う：喪失体験と意味づけ、失われる関係性：関係崩壊やストーカー、大切な人を失う：遺族とwell-being、被災者を援助した被災者などの社会的な事例を基に心理学を学んでいきます。社会心理学を中心とした心理学の基礎知識を身につけ、また、それらの知識を用いて日常生活を捉え直すことができるように学習していきます。</p>	

メンタルヘルス	<p>本授業では人間の心の健康を、自我発達、人格形成、生涯発達との関連から学習するとともに、皆さん一人ひとりが自己分析を行い、自己および身近な人達との関係の持ち方を見直します。この授業は、皆さんが学習を通して心の健康について考え、心の健康をより向上させることに役立つことをねらいとしております。具体的には、自己認知と他者認知、ボディイメージと健康、心の健康からみた正常と異常、エゴグラムなどの講義によりメンタルヘルスを学びます。心の健康に関する基礎知識を習得し、自己および身近な人の心の健康をより向上させることを目標に学習を進めます。</p>	
生活と健康	<p>この授業では、人生を健康的に生きるために、疾病（生活習慣病を中心に）を予防し、健康を維持・増進するための具体的な生活習慣について、自分の生活を振り返り、よりよい生活習慣になるように学んでいきます。具体的には、健康の概論から始まり、生活習慣病、成人期の特徴と健康課題、食事と生活習慣、脳の健康に関わる食事・栄養、生活の中でできる認知療法、心の健康に関わる精油・呼吸・瞑想等の活用法、生活習慣と自己管理、運動と生活習慣、糖尿病、睡眠と生活習慣、喫煙と生活習慣、飲酒と生活習慣、脳血管障害・心疾患とその予防、メタボリックシンドローム、青年期と生活習慣などについて学んでいきます。成人期の特徴、健康に過ごすための諸課題、成人期に起こりやすい生活習慣病及び予防策、食事、睡眠、運動、ストレス等の生活習慣と健康の関係を理解し、望ましい生活習慣について学習を進めていきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (31 小倉能理子/4回) 脳血管障害・心疾患とその予防、メタボリックシンドローム、青年期と生活習慣等について講義します。</p> <p>(79 富澤登志子/4回) 生活習慣と自己管理、運動と生活習慣、糖尿病等について講義します。</p> <p>(105 漆坂真弓/4回) 睡眠、喫煙、飲酒と生活習慣について講義します。</p> <p>(126 阿部由紀子/3回) 脳の健康に関わる食事・栄養、生活の中でできる認知療法、心の健康に関わる精油・呼吸・瞑想等の活用法について講義します。</p>	オムニバス方式
医学・医療の世界	<p>この授業では、ふだんから、簡単な測定機器や特別な機器等いろいろな測定機器を使用して、健康の維持・増進のため、自分自身の今の状態を知ることが大切であることを学びます。受講生のみなさんが、自分自身の身体を知るために、測定数値の基本を示す意味を考えながら、自分の身体に興味を持つこと、実際に自分たちで機器を用いて測定が経験できることを中心としています。また、その測定数値をもとに、生活習慣について考えるきっかけとし、少しでも自分の生活を工夫する力を養います。</p> <p>この授業を受けて、身長、体重、血圧、脈拍の数値が示す意味、生活習慣病に深く関与する動脈硬化などを理解し、大学内にある機器を用いて、さまざまな計測を経験し、計測した結果から、生活習慣の工夫を考えることができるように学習を進めていきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (32 井瀧千恵子/8回) 身体計測の基礎、血圧・脈拍の測定、生活習慣の工夫、ロコモティブシンドローム等について講義し演習を行います。</p> <p>(105 漆坂真弓, 127 北島麻衣子, 128 三上(小山内)佳澄/7回) (共同) 血圧・脈拍の測定、ロコモ度テスト、体組成の使用、骨密度測定等について演習します。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

<p>情報と健康・医学</p>	<p>現在、情報技術の普及に伴い、データ整理・解析や情報発信が身近なコンピュータで簡単に行えるようになってきました。一方で、これらを使いこなせる人とそうでない人との間にデジタルデバイドと呼ばれる格差が生じています。今後、十分に情報技術の恩恵にあずかるには、低学年次においてその基礎を習得しておくことは有益です。この授業では、主に生体計測データを対象にして、①Microsoft Excelを用いたデータ整理・解析、②Excel VBAやGNU Octaveを用いた数値計算プログラムの初歩、簡易GUIアプリ作成、③簡単なWebアプリとWebページの作成による情報発信について学びます。この授業を受けて、表計算ソフトウェアの使用方法およびプログラミングの基礎を習得し、生体計測データ等の解析ができること、情報収集および発信技術を習得し、整理されたデータを外部に発信できることを目標に学習していきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (80 矢野哲也/9回)</p> <p>MS-Excelの基本的な操作, Excel VABの基礎, Webページの作成, WebAPI, GNU Octaveの基本的な操作, 行列演算, 画像処理の基礎と応用等について講義します。</p> <p>(129 陳曉帥/6回)</p> <p>周波数解析の基礎と応用, 数値計算の基礎 (モンテカルロ法, 数値計算の微分方程式の解法, 運動方程式など) 等について講義します</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>運動と健康A</p>	<p>この授業では、脳卒中のリハビリテーション、運動機能障害のリハビリテーション、その看護の役割と実際、リハビリテーション看護の実際、障がい者のスポーツ活動等を理解し学んでいきます。障がい者について考えてもらうとともに、健常者のスポーツ活動で生じるけがの種類と原因を理解し、リハビリテーションの基本的な考え方について理解し学びます。特に、脳卒中のリハビリテーションでは、骨折やスポーツ障害、末梢神経損傷など整形外科的疾患との違いを伝え、中枢神経の回復を講義やVTRなどを通じて学習し、後遺症を持った障害者の生活スタイルについて理解を深めます。また、運動機能の障害と支援、リハビリテーション看護の専門性について理解し、リハビリテーションケアの役割について考えてもらいます。障害の本質を理解し、社会の中でどのように障害者とともに歩んで行くべきなのかを考え、学んだことを自らの人生の中で活かしていけるようにすること、脳卒中のリハビリテーションの実際について理解し、基本的な知識を身につけること、運動機能障害のリハビリテーションにおける看護の役割と実際を理解し、リハビリテーション看護を実践するための基本的な知識が理解できるように学習を進めていきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (33 藤田あけみ/5回)</p> <p>運動機能の障害と支援, リハビリテーション看護, 口腔ケア等について講義します。</p> <p>(34 尾田敦/5回)</p> <p>障害者の理解, 障害者スポーツ, スポーツ活動等による怪我の種類とその原因, リハビリテーションの役割等について講義します。</p> <p>(81 高見彰淑/5回)</p> <p>脳卒中とリハビリテーション, 高次脳機能障害等について講義します。</p>	<p>オムニバス方式</p>

	運動と健康B	<p>この授業では、健康教育についての基本的な考え方、学校健康教育の目標・機会・方法等、子どもが健康に生きる力を高めるための支援のあり方、健康科学に関する基礎的な知識、各ライフステージにおける実生活への活用、健康を意識した実技と実際についての理解を進めて学びます。具体的には、健康教育として健康の概念、ライフスタイルと健康、学校における健康教育と健康管理について学びます。健康科学概論として、健康指標を読み解く、各ライフステージにおける健康・体力科学の基礎理論、健康維持増進のための栄養学の基礎を学び、併せて、体づくり運動や集団行動の実践を行います。この授業を受けて、健康教育、健康科学と各ライフステージにおける実生活への活用、健康を意識した実技について自分の動化をまとめ、実践していくことを学習します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (35 戸塚学/5回) 健康科学について講義します。</p> <p>(36 清水紀人/5回) 体づくり運動と集団行動について講義します。</p> <p>(70 高橋俊哉/5回) 健康教育について講義します。</p>	オムニバス方式
キャリア教育	キャリア形成の基礎	<p>この授業では、将来の就職先の目標を設定し、自己理解の上、学びの目標を立てて、地域の多様な職業について職業人と接することで地域社会との関わりの中で自分の役割や将来ビジョンを考えていくことを学んでいきます。具体的には、キャリア教育概論として、働く意義、雇用の多様化、正社員/非正社員、フリーター/ニート、働くルールとして、初級労働法、ブラック企業、若年雇用のサポート、社会の仕組みなどを学び、また、地元の青森県で働く意義を考えていきます。そのために、キャリア・インサイト（適性検査）自己理解ツールの実施、自分史やポートフォリオの作成、自らの強みや課題の分析、自分がやりたいこと、やれること、やるべきことの理解し、地域の職業人や地域の多様な職業を知りながら、キャリア形成の基礎となるべきことを実践できるように学習していきます。</p>	
	キャリア形成の発展	<p>働くことの意義、自らの専門性を見つめ、キャリアをデザインする力を身に着けたり、また、地域の経済・社会・雇用の状況を理解し「地域志向」を育むこと学びます。学ぶ目標を再確認しながら、インターンシップセミナーに参加するなどの体験的な学修を行うほか、地域の多様な職業を理解した上で、地域志向のキャリアについて理解し学んでいきます。この授業を受けて、自分自身の大学生活における学びを踏まえて、自らのキャリアの形成に向けたアクション・プランを検討・立案することや自分自身のキャリアについて、当事者意識を持って主体的・能動的に学修する態度を持てるように学修を進めていきます。</p>	
	キャリアデザイン	<p>現代日本の就職活動は、インターネット上の大手就職情報サイト上で行われる。しかし就職情報サイトの中から地元の優良企業を見つけることは、簡単なことではない。就職情報サイトでは、賃金や福利厚生といった経済的側面が重視されるため、地方の企業は不利である。また、たとえその企業の業績が高かったり、賃金や福利厚生が手厚かったりしても、情報発信のノウハウには課題を抱えていることが多いので、就職情報サイトではその存在が目立ちづらい。では、どうすれば地方の企業の情報を効果的に集め、地方に存在する優良企業や自分にあった企業を見つけることができるだろうか。本授業では、キャリア支援の情報をもとに学生同士が協力しあってプレ就活を実践し、皆で地方就職の方法論を学んでいきます。具体的には、eリクルート時代のキャリア形成（現代日本におけるキャリア、eリクルート時代の就職活動、キャリアリテラシー）から始め、地方就職の実際、地元就職のためのキャリアリテラシー、アクションプランの作成と実施（アクションプランの作成、eポートフォリオの運用、コーチングおよびカウンセリング）を学び、地方就職のためのアクションプランを作成し、就活の実践に活かしていけるように学習を進めていきます。</p>	

英語	Listening(初級)	<p>本講義では、英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどに関する短い内容について、多様な英語を聞いて理解できるようになることを目的とする。リスニングの基礎を学び、英語音声情報を正確に聴きとることができる、テキストで取り上げられているトピックについて、コミュニケーション活動をすることができる能力について学習する。中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p>	
	Listening(中級)	<p>本講義では、話の主題や大意を理解するために、多様な聞き方ができるようになること、英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見や考えなどについての短い説明や会話を聞いて理解できるようにすることを目的とする。中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。また、様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるようになる。</p>	
	Listening(上級)	<p>本講義は、英語発音の基礎を学び、身近な出来事や意見、考えなどに関する比較的長い内容について、多様な英語を聞いて理解できるようにすることを目的とする。英語を聞く習慣を身につけ、理解できないことを心配せず、理解出来ていることに集中して練習する。多くのリスニングの機会を持ち、英語に慣れ、曖昧さに寛容になることが目標となる。すべてのスキルが実践され、批判的思考が非常に重要となる。</p> <p>英語発音を学び、身近な出来事や意見、考えなどに関する比較的長い内容について、多様な英語を聞いて理解できるようになる。また、スピーキングなどのほかの技能も習熟するように努める。学生は授業においてリスニングするだけではなく、個人あるいはグループで活発な発表を行うことが要求される。中核となるリスニングを他の3技能(リーディング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。</p>	
	Reading(初級)	<p>本講義は、英語で書かれた本の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること、中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけることを目的とします。具体的には、ペアワーク、グループワークを多用し、議論を通じて読解力を養います。基本的な語彙を学び、2,000語レベルの英文を読んで理解できるように学習します。</p>	
	Reading(中級)	<p>本講義は、中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけることを目的とする。講義は演習形式(クラス全体)およびペアワークとグループワークもあります。話の主題や大意を理解するために、多様な読み方ができるようになること、日常生活に対応できる語彙を学び、4,000語レベルの英文を読んで理解できるようにすることを目標に学習します。教科書に沿って、読解前・読解中・読解後の3段階のタスクを行っていきます。なお、13回目には「英語外部試験(VELC Test)」が実施されます。</p>	
	Reading(上級)	<p>本講義では、英語の学術テキストの読み方と重要な学術語彙の作り方を学びます。また、健康、多文化主義、言語、環境問題などの読み方のさまざまなトピックを批判的に検討し、それらをグループで議論する練習をすることも学びます。中核となるリーディングを他の3技能(リスニング、スピーキング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけるよう学習します。社会生活上の幅広い場面に対応できる語彙を学び、6,000語レベルの英文を読んで理解できるようになることを目標とします。</p>	



Speaking(初級)	本講義は、基本的な語彙や言い回しなどを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになることを目的としています。中核となるスピーキングを他の3技能(リスニング、リーディング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけるように学習します。受講生を中心としたグループワークやペアワークを中心に、補足として演習や講義などを取り入れていきます。	
Speaking(中級)	本講義では、基本的な語彙や言い回しなどを多様に使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるようになることを目的とします。コミュニケーション上の問題点を認識し、改善のための方略が理解でき、意思表示が明確にできるよう学習します。 中核となるスピーキングを他の3技能(リスニング、リーディング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。Basics「基礎編」Practices「実践編」Applications「応用編」Advanced Applications「発展編」の4部構成から成るテキストを活用して、英語コミュニケーション攻略を身につけます	
Speaking(上級)	本講義では、受講生はリスニングの習慣を維持し、さまざまなスピーキングの機会を有効に使い、英会話の機会を多く持つことが目標となります。英語をより快適に使い、そのあいまいさを許容することが目標となります。すべてのスキルについて学び、シンプルなコミュニケーションに重点が置かれます。状況に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく伝え合うことができるように学びます。中核となるスピーキングを他の3技能(リスニング、リーディング、ライティング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけます。	
Writing(初級)	本講義は、文法をコミュニケーションの観点から確認し、基本的な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるようになることを目標とする。中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につける。演習形式、ペア・ワーク、グループ・ワーク、ライティング活動で授業を行い、英文法の基礎が理解できること、基本的な英文を読んで、その内容を理解することができるよう学習する。	
Writing(中級)	本講義は、中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけることを目的としています。講義は、演習形式を基本としますが、グループワークやペアワークも多く取り入れられます。文法をコミュニケーションの観点から確認し、多様な語彙や構文などを使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるように学習します。	
Writing(上級)	本講義は、中核となるライティングを他の3技能(リスニング、リーディング、スピーキング)と組み合わせながら学び、総合的な英語力の基礎を身につけることを目的としています。文法をコミュニケーションの観点から確認し、目的に応じて適切な英語を使って、身近な出来事や意見、考えなどについて、分かりやすく書くことができるように学習します。 授業時間はグループワークやディスカッションを中心とし、大学生としてこれから不可欠となるエッセイ・論文の基礎を学びながら、意味が正確に伝わる英語の文章を書き続ける授業である。文法のみならず、段落や議論の総体的な構造について考えたり、自分の専攻や時事についての知識を活用しながら実用的な英語を用いてコミュニケーションを取りながら学習する。	

Integrated A (国際共通語としての英語)	本講義では、世界の多様な英語 (Englishes) に慣れ、地域社会から世界情勢まで幅広い話題について、議論したり発信できるようになることを目的としています。様々な英語を話す文化について英語で読むことを練習して、語彙練習をします。また、地域の英語の方言やアクセントを聞く能力の向上にも焦点を当てます。1年次に技能別4科目を学習したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨き、様々な文化的背景を持つ人々と平明な英語で伝え合うという、国際共通語としての英語を意識して使えるように学習します。	
Integrated B (一般学術目的の英語) Level 1	本講義では、受容的 (リスニングとリーディング) スキルを中心に学んでいきます。そこで積極的に語彙を増やし、カギとなる文法構造についての理解を見直し強化していきます。プレゼンテーションに参加したり、プロジェクトに参加したり、さまざまな場面でロールプレイをします。生涯にわたる英語学習習慣の基礎を確立していくのが目的です。また、国際的なコミュニケーション戦略を開発していけるようにします。グローバルなリスニング、語彙の習得、コミュニケーションを中心に学びます。活動の多くは食物や植物の世界に関係するものになります。受講生は、ペアやグループで活動し、短いプレゼンテーションや長いプレゼンテーションを行います。また、イングリッシュラウンジで留学生と交流する機会を持ちます。これは逆転授業といい、主に教室外で学んでいきます。	
Integrated B (一般学術目的の英語) Level 2	本講義は、学術英語の基本的な語彙や文法を適切に使うことができるようになること、大学の教養科目で扱われるような様々な学術分野について、プレゼンテーションなどの形で発信できるようになることを目標とします。動画を視聴し、語彙を学び、様々な学術トピックについて議論する方法と効果的なプレゼンテーションを行う方法を学びます。また、海外旅行に関するトピックを話し合ったりするなど、英語のコミュニケーションスキルを向上させる機会がたくさんあります。	
Integrated C (キャリア英語)	本講義は、実務場面で適切な英語表現や実社会でのプレゼンテーション力、交渉術などについて理解できるようになること、様々な話題について、分かりやすく伝え合うことができるようになることを目標とします。 1年次に技能別4科目を学習したことを踏まえ、これらを統合して広く使う力を磨き、国際共通語としての英語を意識して使えるよう学習します。また、自分の身近な話題についてのプレゼンテーションとそれに対する質疑を通じて、英語で自分を伝えることができるよう学習します。	
多言語  ドイツ語 I	ドイツ語を始めて学ぶ受講生を対象にした基礎入門コースです。初級テキストを使いドイツ語の仕組みを段階的に学びます。ドイツ事情の紹介、表現力をつける練習も含まれます。今年度は文法事項を10課に分けた教科書を使用します。ドイツ語 I の達成目標は以下のとおりです。 (1) ドイツ語が正確に発音できるようになります。 (2) ドイツ語による初歩的なコミュニケーションができるようになります。 (3) 辞典を利用して簡単なドイツ文を読めるようになります。  (オムニバス方式/全15回) (111 山本由起/8回) ドイツ語の仕組みを段階的に身につける演習を行います。  (112 福島伸雄/7回) ドイツ事情の紹介、表現力をつける演習を行います。	オムニバス方式
ロシア語 I	ロシア語の正しい発音と読み方を身につけて簡単な文を作れるようになること、ロシア語による初歩的なコミュニケーションが出来るようになることを目標とします。ロシア語を正しく発音出来るようになるために読む練習を積極的に行い、自分で簡単な文を作るのに必要な基本的文法を学習します。ロシア映画、ことわざ、文学、民謡などを通じてロシアの文化と伝統を紹介するなど、様々な形でロシア語により親しみを感じて楽しく勉強できるようにします。	

中国語 I	<p>中国語をはじめて学ぶ人を対象に、中国語の基礎を総合的に学習します。特に中国語の独特な発音や声調の把握に力を注ぎ、中国語による日常の基本的コミュニケーション能力を身につけることを目指します。語学の授業ですので発音練習やテキストの音読、課題の発表など積極的に声を出し、発言することが求められます。黙って座っているのではなく、積極的な授業への参加が必要です。中国語Iを終えた時点で次のようなことができるようになることを目指します。</p> <p>(1)中国語の基本的な発音と声調がしっかりと身につくこと、正確な発音・聞き取り・ピンインの書き取りができるようになっていくこと。</p> <p>(2)中国語の基本的な文法を理解し、基礎構文をマスターしていること。</p> <p>(3)中国語の基本的な表現を使って、簡単な挨拶や自己紹介が可能になること。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (114 顧国玉/10回) ドイツ語の話す・聞くことについて演習を行います。</p> <p>(134 許紅/10回) ドイツ語による基本的なコミュニケーションや、辞典を使用して基本的なドイツ文が読めるように演習を行います。</p> <p>(135 李淑賢/10回) ドイツ語の読み・書きについて演習を行います。</p>	オムニバス方式
朝鮮語 I	<p>本講義は、韓国語を始めて学ぶ受講生を対象に、韓国語の構造および基本的な文法を理解し、自分の言葉で韓国語を話せるようにするための入門コースです。毎回、事前に簡単な課題（予習用）を配布し、小テストを行います。文字と発音の仕組みを身につけ、自然に聞き取り、正確に書く事ができるようになること、基本となる文法事項(助詞・指定詞・数詞等)を身につけ簡単なやり取りができるようになることを目的として学習を進めていきます。</p>	
ドイツ語 II	<p>本講義では、ドイツ語 I で学んだことの徹底化に加えて、読み・書き・話す・聞くことについて学習をして、ドイツ語の総合的な能力を養います。ドイツ語 I で学んだことを復習して理解を確実なものにする授業です。独語検定試験 4 級相当のテキストを使用します。ドイツ語による基本的なコミュニケーションや、辞典を使用して基本的なドイツ文が読めること、日常的なシチュエーションに応じて、ドイツ語で基本的な応答ができること、自分の表現したいことを基礎的語彙を使ってドイツ語で書けることを目標とします。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (85 FUHRT VOLKER MICHAEL/10回) ドイツ語による基本的なコミュニケーションや、辞典を使用して基本的なドイツ文が読めるように演習を行います。</p> <p>(112 福島伸雄/10回) ドイツ語の話す・聞くことについて演習を行います。</p> <p>(113 田中美由紀/10回) ドイツ語の読み・書きについて演習を行います。</p>	オムニバス方式
ロシア語 II	<p>ロシア語の基本的な文法の力を養っていくための授業です。ロシア語 I で学んだ事をより深く理解すると共に読み書きについて、より実践的な学習をします。授業は、基本として二人一組になり、学習した文法を用いて応用問題に取り組み、興味を抱くような簡単な物語を読み、その感想を述べ合います。また、簡単な作文を作り発表します。辞書を使用して基本的なロシア語文が読めること、簡単な質問と受け答えをできること、物語を読んで理解できることを目標とします。</p>	

中国語Ⅱ	<p>中国語Ⅰで学んだことを基礎として展開します。テキストを使いながら、「聞く」「話す」こと、文法の知識や読解力などの総合的な力が身につくように展開していきます。会話能力を向上、文法の知識や語彙をさらに増やし、中国語の総合力をつけていく授業です。中国語の文法や構文をはじめとする総合的なコミュニケーション能力の基礎がしっかりと身につけていること、自分が中国に出かけたとき、あるいは日本に来た中国人と簡単な会話ができるようになることを目標におきます。</p>	
朝鮮語Ⅱ	<p>基本的な会話をするために必要な基本文形と正確な発音を習得できるようになること、動詞・形容詞の基本の活用形と連体形および変則活用ができるようになること、日常に使う基本表現ができるようになること、日常に使う基本文型の読み書きができるようになることを目的としています。</p> <p>韓国語による会話がより正確に、かつ流暢に出来るようになり、また、自分で表現したいことを基礎的語彙を使って書けるようになります。伝える、つなぐ、使える表現練習をし、話したいあなたのスキルを着実にアップすることを目指して学習を進めていきます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（医学部心理支援科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育科目	心理 系科目	<p>本講義では、心理学の歴史、および、各教員が専門とする領域（心理学研究法、心理学的測定法、実験心理学、認知心理学、発達心理学、障害者・障害児心理学、臨床神経心理学、子どもの精神医学、大人の精神医学）について、講義する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）            (1 宮原資英/2回)            心理学研究法、障害者・障害児心理学の概要について講義する。</p> <p>(2 小河妙子/2回)            実験心理学（感覚・知覚）、認知心理学の概要について講義する。</p> <p>(3 玉井康之/2回)            大人の精神医学の概要を精神分析理論をベースとしながら講義する。</p> <p>(4 栗林理人/2回)            子どもの精神医学の概要を精神性発達をたどりながら講義する。</p> <p>(5 安達知郎/1回)            オリエンテーション、心理学の歴史の概要、および、心理学研究法、障害者・障害児心理学の概要について講義する。</p> <p>(6 松田侑子/2回)            主に乳児期から青年期にかけての認知機能、感情、社会性の発達について講義する。</p> <p>(7 足立匡基/2回)            発達心理学（発達の定型と非定型）、心理学的測定法（質問紙法）について概要を講義する。</p> <p>(8 高橋芳雄/2回)            臨床神経心理学の概要について講義する。</p>	オムニバス方式
	公認心理師の職責	<p>本講義では、公認心理師の基本的な役割について概説する。具体的には、公認心理師の法的義務及び倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保や情報の適切な取扱い、保健医療・福祉・教育・司法犯罪・産業労働の各分野における公認心理師の具体的な業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携について学習する。これら公認心理師の職責に必要な基本的知識を習得し、関連各分野と結びつけた実践について理解を深める。</p>	
	臨床心理学	<p>本講義では、臨床心理学の成り立ちと臨床心理学の代表的な理論について概説する。臨床心理学の成り立ちでは、力動的心理療法、行動療法、人間性心理学、認知療法など各種心理療法に加え、心理アセスメントの発展の歴史を概観する。代表的な理論では、心理療法（力動的な心理療法、認知行動療法、人間性心理学、家族療法）の理論に加えて、臨床心理学の基本的概念、見立てとケースフォーミュレーションの考え方、心理療法の効果とエビデンスについて学ぶ。</p>	

	心理学研究法	本講義では、心理学における実証的研究法、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について学習する。心理学における実証的研究法では、信頼性と妥当性、再現性といった科学的な思考の基本から、実験的方法と観察的方法の種類について概説する。データを用いた実証的な思考方法では、相関関係と因果関係という実証データの基本的な考え方に加え、データの統計的記述について学習する。研究における倫理では、インフォームド・コンセント、研究不正、利益相反の考え方について学習する。	
	心理学実験	本講義では、心理学実験法に関する基本的な考え方、研究計画の立案について学ぶ。錯視、刺激の弁別閾、記憶や注意などの認知課題実験を通して、実験仮説の設定、検証、結果の記述の仕方、科学的な思考方法を学ぶ。各実験についてレポートを課し、科学的文体、盗用や剽窃、図書館やインターネットの利用方法を身につける。最終的に、自ら基本的な実験の計画立案と実施し、実施した実験について科学的な形式のレポートにまとめ、報告できるようになることが目標である	
	心理統計法	本講義では、心理学で用いられる基本的な統計手法と統計に関する基本的な知識、統計ソフトの操作について学習する。基本的な統計手法、知識については、代表値と散布度、相関、回帰、正規分布、母集団と標本などについて理解した上で、t検定や分散分析、因子分析、ノンパラメトリック検定などの頻繁に用いられる統計手法について学習する。これらの基礎的な知識を得た上で、SPSSやRなどの統計ソフトの基本的な操作方法について実践的に学習する。	
医学・保健医療系科目	医学概論	本講義では、医学の基本と歴史、医療の基本と現場を指定されたテキストに基づいて学んでいきます。医学と医療の関係や枠組みの理解を深めながら、様々な医療専門職者の連携共同（チームワーク）を円滑に進めるために、すべての医療専門職者に求められる医学の基本を公認心理師という立場で共有することを学んでいく。そして、身につけた医療現場で使用される共通の言葉（医学用語）による確実なコミュニケーションの土台を医療専門職者として築き上げていくことを目指します。	
	保健学概論	健康、保健という基本的概念を理解し、「人」をみつめた将来の医療専門職となる基本的態度を培うとともに、保健学科の5専攻の各専門分野における教育の理念や専門職としての役割、責任、他職種との連携等について学ぶことにより、その共通性と独自性について理解する。具体的には、健康・保健の概念から始まり、医療現場で必要とされるメディカルスタッフ像、看護学の概念、看護者の役割・機能など、検査技術科学専攻のカリキュラムの特色および臨床検査技師の役割、業務内容とチーム医療、作業療法の概要と作業療法士の役割、および他職種との連携、医療機関における放射線診療の概要と放射線、リハビリテーションと理学療法について学び、所属する専攻以外の仕事内容について十分理解し、受講生の間でディスカッションするよう心がけ、専攻以外の学生と積極的に交流しながら、将来の医療チームの一員としての基礎作りとなるように学習していきます。  (オムニバス方式/全8回) (30 小山内隆生/1回) 作業療法の概要と作業療法士の役割、リハビリテーションにおける他職種との連携について講義する。  (33 藤田あけみ/1回) 医療現場で必要とされるメディカルスタッフ像について講義する。  (40 北宮千秋/1回) 健康・保健の概念、保健医療の専門性や医療職として役割を踏まえたチーム医療に関して講義する。  (41 樋口毅/1回) 医療現場で必要とされるメディカルスタッフ像について講義する。	オムニバス方式

	<p>(42 石川玲/1回) リハビリテーションの概要、および身体の動きの仕組みと理学療法 の関連について講義する。</p> <p>(96 千葉満/1回) 検査技術科学専攻のカリキュラムの特色および臨床検査技師の役 割、業務内容とチーム医療について講義する。</p> <p>(115 對馬恵/1回) 医療機関における放射線診療の概要と放射線について講義する。</p> <p>(130 工藤ひろみ/1回) 看護学の概念、看護者の役割・機能について講義する。</p>	
コミュニケーション論	<p>コミュニケーションの知識とスキルの習得は、保健医療活動の基盤 となる人間関係を成立・発展させるために必須である。本科目は、良 い人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解できること と、医療現場におけるコミュニケーションの特徴と接遇について理解 できることを具体的到達目標としている。前半のコミュニケーション の基本では、対人コミュニケーション成立の基本、ノンバーバル・コ ミュニケーション、コミュニケーション技法、身体的交流という視点 からみたコミュニケーションについて教授する。後半の医療現場にお けるコミュニケーションの特徴では、医療の対象者とのコミュニケー ション、医療者間のコミュニケーション、医療者に必要な接遇につ いて教授する。授業形式だが簡単な演習も取り入れている。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (47 木立るり子/5回) 対人コミュニケーション成立の基本知識について講義する。</p> <p>(131 會津桂子/3回) 対象者・医療者とのコミュニケーションについて講義する。</p>	オムニバス方式
早期体験実習(多職種連携)	<p>地域医療の実際の場面を入学後早期に体験し、将来、心理支援専門 職になるにあたって必要となる学習の具体的なイメージを持つ。この 授業では、地域保健医療の現場に出向く前に必要なマナーや実習目的 についてグループワークを通じて検討し、臨地実習を行うことによ り、心理支援専門職としてのあるべき姿勢を学んでいく。上記を通じ て上記を通じて心理師としての職務を理解し、学部で心理師を学ぶ者 としての立場を自覚するとともに、実習を通じて医学科・保健学科・ 教育学部の学生と交流し、チーム医療の基礎を作る。</p> <p>(共同/全15回) (3 玉井康之、4 栗林理人/ 15回) オリエンテーション、実習の事前・事後指導、発表への助言を行 う。</p>	共同
心理支援科学英語講読基礎	<p>本講義では、心理支援に関する英語文献を読むための英語の基礎知 識を修得するとともに、心理学、医学及び保健学等の学術論文の読み 方を学ぶ。高校で学習したことを基礎にして、リスニング、リーディ ング、スピーキング、ライティングの英語の4技能及びプレゼンテー ション能力という広いコミュニケーション能力を育成しながら、専門 英語の読解力を養う。具体的には、心理支援に関する身近な事項や、 1年次で受講した心理系科目及び保健医療系科目で学んだ事柄につ いて、英語で読解や聴解や質疑応答ができることを目指す。</p>	

<p>人体形態学</p>	<p>本講義では、人体形態学(解剖学)の基礎を理解し、専門科目の基礎を培うことを目的とする。主な内容は、骨格系と筋系であり、具体的には、細胞の構造と役割、組織の構造・分類と分布・役割、方向などの一般用語、人体の器官系と機能、全身の骨・交連骨格の形態・部分名称と役割、全身の関節構造と運動、全身の筋の名称と機能(主な神経支配)について形態と機能を関連付けて理解を深める。</p> <p>(オムニバス/全15回) (43 敦賀英知/8回) 骨格系の形態と機能等について講義する。</p> <p>(44 細川洋一郎/7回) 筋系の形態と機能等について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>人体機能学</p>	<p>本講義では、心理専門職を目指す立場から人の生理的機能を以下のような観点から学習する。生命現象のメカニズム(生理学)を理解する。生命を維持する仕組みについての理解を深める。細胞、組織、器官には固有の特徴があり、すべてを統合した生命複合体が個体である。神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、運動器系などの仕組みを学び、統合された生体システムとしての働きを理解する。当該科目は、公認心理師の養成にあたって開講する必要な科目のうち、「21.人体の構造と機能および疾病」のうち機能的な側面を詳細に扱うものである。</p>	
<p>人体病理学</p>	<p>本講義では、心理専門職を目指す立場から人体における病気の基本的概念としての人体病理学を学習する。総論では、病理学の歴史、概要、病因、物質代謝障害、進行性病変、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍などについて病理学の基本的概念を中心に学習し、各論では、各臓器の特徴的な病気の基本的概念を学習する。当該科目は、公認心理師の養成にあたって開講する必要な科目のうち、「21.人体の構造と機能および疾病」のうち疾病の側面を詳細に扱うものである。</p>	
<p>運動学</p>	<p>本講義では、人体の運動の機構を人体構造や機能、病理など多方面からのアプローチから理解、学習する。関節運動の面と神経支配の面から、人間の運動のしくみについて理解し、また、筋肉の起始停止と走行を理解したうえで、個々の部位の運動について理解する。</p> <p>生体力学の基礎、筋収縮の機構と性質、筋の作用、肩甲帯の筋群と運動、肩関節の筋群と運動、肘・前腕・手の筋群と運動、骨盤帯・股関節の筋群と運動、膝の筋群と運動、足関節の筋群と運動、体幹の筋群と運動、歩行分析 について講義する。</p>	
<p>言語療法学概論</p>	<p><b>【授業としての具体的到達目標】</b> 言語聴覚障がい概要、特に、肢体障がい合併する言語障がいを理解する。臨床において、STの提示する概念、用語が理解できるだけでなく、協業して障がいを持つ方の問題解決にあたるための意識と、視点、方法論を学ぶ。</p> <p><b>【授業の概要】</b> 言語障がい言語処理過程のどこの障がいによっておこり、症状がどのように異なるか。言語障がいの方に対して、適切なPT,OT,心理的アプローチをするためには、どの過程の障がいによって、訓練やサポートが異なることを理解する必要がある。</p> <p>(オムニバス/全8回) (139 浅田一彦/5回) 失語症・高次脳機能障がい等の評価とリハビリテーションについて講義する。</p> <p>(140 奥山淳子/3回) 摂食嚥下障がい等の評価とリハビリテーションについて講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>



		<p>本演習では、保健学の総仕上げとして、これまで学習してきた専門領域の知識や技術を総動員し、保健関連職種等の業務や技術等について相互に学習し、多職種間の互いの仕事や連携について多職種連携の演習を通して相互に学習します。演習では、多職種連携を伴う具体的事例や課題について、各々の専門領域を学習した学生グループにより、調査や評価、問題発見、課題解決等についてグループワークを行い発表、討論を行うなかで多職種連携について学習を進めていきます。演習課題は、緊急被ばく医療(福島原発の事故を例に避難所生活や仮設住宅～復興住宅での医療やケア)、青森県内の地域在宅医療やケア(がんのターミナルケアや難病や脳卒中後のリハビリ等)等を提示し選択してもらう予定です。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (40 北宮千秋/2回) 保健師の観点から、保健医療職種の連携について講師します。</p> <p>(87 工藤幸清/2回) 放射線による環境汚染について講義します。</p> <p>(96 千葉満/3回) グループワーク(グループダイナミックス、討論の体験)への助言を行う。</p> <p>(116 藤田俊文/4回) インタープロフェッショナルワーク(多職種連携)について講義します。</p> <p>(125 田中真/4回) グループワーク(グループダイナミックス、討論の体験)への助言を行う。</p>	オムニバス方式	
専門 応用 科目	心理系科目	知覚・認知心理学	<p>本講義では、人の感覚・知覚、認知、思考の機序及びその障害について学習する。感覚・知覚領域では、感覚の種類と構造、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・体性感覚の基本的特性とその障害について概説する。認知・思考領域では、認知の基本的特性、記憶や注意のメカニズム、問題解決と推論とこれらの障害について学習する。授業を通して、知覚や認知に関わる様々な研究法を理解し、客観的データに基づく論理的思考ができるようになることが目標である。</p>	
		感情・人格心理学	<p>本講義では、感情に関する理論及び感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響、人格の概念、及び形成過程について学習する。感情に関する理論及び感情喚起の機序では、感情の生物学的基礎、古典的理論、基本的感情説と次元説について概説する。感情が行動に及ぼす影響については、共感性という観点から援助行動を理解するとともに、感情の制御について学習する。人格の概念及び形成過程では、基礎的な人格の概念について理解した上で、知的機能の個人差、人格の形成と変容、性格の5因子説、パーソナリティの障害について学習する。</p>	
		発達心理学 I	<p>発達心理学 I では、出生から青年期にかけての認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、心身の発達についての基礎的な知識及び考え方について学習する。認知機能の発達及び感情・社会性の発達では、発達の生物学的基礎を理解したうえで、外界認知、思考と言葉、感情、対人関係の発達について概説する。自己と他者の関係の在り方と心理的発達では、自己認知・他者認知とそれらの関係性について学習する。</p>	
		学習・言語心理学	<p>本講義では、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序について学習する。具体的には、学習・行動研究の歴史と基本的な考え方、および行動の測定と実験デザインに加え、生得的行動、レスポナント条件付け、オペラント条件付けから基本的な学習の成立機序を学習する。また、学習が効果的に成立するための条件などについても学ぶ。言語心理学では、言語の生物学的基盤、社会的基盤、音韻・語彙・文法・語用論的能力の発達について概説する。</p>	

神経・生理心理学	本講義では、脳神経系の構造及び機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要について学習する。脳神経系の構造と機能では、脳神経系の基本的構造と、情報伝達の仕組み、大脳皮質の機能局在、神経の可塑性と環境の影響について概説する。記憶・感情等の生理学的反応の機序では、感覚・知覚、運動、記憶、感情、動機づけと脳神経系の関連について学習する。さらに、精神疾患および神経発達症の高次脳機能障害についても概説する。	
発達心理学Ⅱ	発達心理学Ⅱでは、思春期のメンタルヘルスとその予後、生涯発達の見点から、成人期から高齢期にかけての認知機能の発達及び感情、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、心身の発達についての基礎的な知識及び考え方について学習する。また、定型発達と非定型発達という観点から、乳幼児期から成人期にかけての発達障害児者の発達と心理的課題、支援についての近年の取り組みについて概説する。	
健康・医療心理学	本講義では、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要とする心理に関する支援について学習する。ストレスと心身の疾病との関係では、ストレスのアセスメント、ストレスと心身の疾病、ストレスマネジメントについて学ぶ。医療現場における心理社会的課題及び必要な支援では、医療現場で基本となる多職種連携とチーム医療の考え方、保健・医療における法律と制度、精神科・小児科・神経科・リハビリテーション領域等において求められる心理的支援について学習する。保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援では、予防的支援の考え方と自殺予防活動について理解する。災害時等に必要とする心理に関する支援では、急性および外傷後ストレス障害とその心理的支援について学習する。	
臨床心理学演習Ⅰ	本演習では、公認心理師として必要な、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。具体的には、カウンセリングにおける基本的な態度や職業倫理、治療的コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の基礎的な知識および技能を学習する。具体的な場面を想定したロールプレイングでは、カウンセリングの基礎スキルを段階的に訓練する。また、事例検討を通じて、実際に心理検査、心理面接、地域支援がどのように進められているのかを学ぶ。	
障害者・障害児心理学	本講義では、身体障害、知的障害及び精神障害の概要、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について学習する。身体障害、知的障害及び精神障害の概要では、身体障害の種別と知的障害についての基礎的な知識、精神障害の定義と分類について学習する。障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援では、障害の基本的な捉え方、生物・心理・社会モデルを学習した上で、障害受容のプロセスと医療・教育・福祉における心理的支援の実践について概観する。	
心理アセスメント	<p>本実習においては、心理アセスメントを行うにあたって、必要な基本的知識や態度、倫理的配慮について学習する。また、実際の検査を体験することを通じて、各検査の特徴や限界に関する理解を深める。検査の後の記録のまとめ・報告書を作成する際の注意点や、フィードバックの在り方についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 玉井康之/7回) 代表的な投影法の検査を体験しながら、各検査の特徴に関する理解を深める。</p> <p>(6 松田侑子/8回) オリエンテーション、心理アセスメントの基本について概説し、代表的な質問紙法、作業検査法、知能検査法の検査を体験しながら、各検査の特徴に関する理解を深める。</p>	オムニバス方式

心理学的支援法 I	<p>本講義では、要支援者に対する心理的な支援、心の健康教育と啓発について学習する。また、心理支援職者に必要な職業倫理について学び、地域支援の在り方について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (1 宮原資英/7回)  要支援者に対する心理的な支援として、認知行動療法を取り上げる。また、こころの健康教育と啓発に関して概説する。</p> <p>(6 松田侑子/8回)  オリエンテーション、心理支援職者に必要な職業倫理について概説する。また、地域支援の在り方について、コミュニティアプローチの関連から理解を深める。</p>	オムニバス方式
福祉心理学	<p>本講義では、福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、虐待および認知症についての基本的知識について学習する。福祉現場において生じる問題及びその背景では、社会福祉の歴史と動向、社会福祉の理念、制度と法律について学ぶ。福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援では、福祉現場における活動の基本的な考え方を踏まえた上で、福祉現場の各領域(児童、家庭、高齢者、障害者)で求められる心理的アセスメント、支援方法について理解する。</p>	
教育・学校心理学	<p>本講義では、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学習する。教育現場において生じる問題及びその背景では、教育の制度と法律、倫理について理解した上で、学校における問題の理解と対応、特別支援教育についての基本的知識について学習する。教育現場における心理社会的課題及び必要な支援では、教育分野においても求められる心理学的アセスメントと心理的支援について学習する。</p>	
臨床心理学演習 II	<p>本演習では、公認心理師として必要な、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイング、事例検討を中心に演習を進める。特に本演習では、受講者同士で行った複数回のロールプレイ面接をビデオに撮影し、それを再検討する。そして、複数回の面接における連続性を理解し、その連続性からクライエントどう見立てるのか、その後の面接をどう展開していくのかについての理解を深める。本演習では、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について修得する。</p>	
社会心理学	<p>本講義では、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響について学習する。対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程では、社会的認知、社会的自己などの基本的な理論を学び、対人関係・対人行動、対人コミュニケーションにおける心理過程を理解する。人の態度及び行動では、態度の機能と構造、説得による態度と行動の変化について学習する。集団及び文化が個人に及ぼす影響では、集団の機能、規範・慣習などの文化が集団に及ぼす影響について学習する。</p>	
心理学的支援法 II	<p>本講義では、要支援者に対する心理的な支援として、特に力動的心理療法、パーソンセンタードアプローチ、表現療法、日本独自の心理療法(内観療法や森田療法)等の歴史、概念、意義、適応及び限界について概説する。これに加えて、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援として家族療法、コミュニティアプローチの基本理論の一つと位置付けられるシステム理論について学ぶ。講義においては、視聴覚資料などを通じて、心理学的支援法を体験的に学習する。</p>	
司法・犯罪心理学	<p>本講義では、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援について学習する。犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識では、司法・犯罪分野における法律と制度、倫理について学び、犯罪被害および家事事件についての基礎的な知識を得る。司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援では、犯罪心理学の代表的な理論、司法領域で求められる心理的アセスメント、心理的支援について学習する。</p>	

産業・組織心理学	<p>本講義では、職場における問題、キャリア形成に対して必要な心理学的支援、組織における人の心理と行動について学習する。職場における問題、キャリア形成に対して必要な心理学的支援では、産業領域の法律と制度、活動の倫理を理解した上で、人事とキャリア形成、産業領域において求められる心理学的アセスメントと心理学的支援について学習する。組織における人の心理と行動では、グループダイナミクスとコミュニケーション、リーダーシップに関する理論について学び、組織構成員の心理と行動について理解する。</p>	
関係行政論	<p>本講義では、公認心理師として社会において活動する上で必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解を含めていくことを目的とする。「保健医療」、「福祉」、「教育」、「司法・犯罪」、「産業・労働」の5分野における法律や制度を把握した上で、できる限り臨床で遭遇する模擬事例を取り上げながら、他職種の専門家や他の機関との連携について概観する。これらを学ぶことにより、公認心理師としての専門性を十分に理解し、専門家としての自覚を促していく。</p>	
心理学基礎研究	<p>心理学研究を行うためには、先行研究のレビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データの分析、論文執筆といった作業が必要になる。本授業では、心理学を実際に行うために必要な計画、調査・実験、分析等の基本的スキルを身につけることを目的として、受講生が自ら行う追試研究、および、卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容、研究結果等について発表・討論する。</p> <p>この授業は教員2名によるチームティーチングで行う。</p> <p>(共同/全30回)  (1 宮原資英, 2 小河妙子/30回)  受講生の計画、発表に対して助言する。</p>	共同
臨床心理学実習	<p>保健医療を中心に、福祉、教育、産業、司法領域の各関連機関・施設において、実習を行う。実習は事前指導・実習・事後指導から構成される。事前指導では、実習に必要な知識や基本姿勢について整理する。実習中は、現場の心理職から指導を受けながら、施設の見学等を含む体験的な学習を行う。事後指導では振り返りを通じて、多職種連携の必要性や、公認心理師の役割、職業倫理等に関する分析・考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)  (3 玉井康之/10回)  医療分野における実習の事前指導、事後指導、および、現場での指導を行う。</p> <p>(5 安達知郎/8回)  教育分野における実習の事前指導、事後指導、および、現場での指導を行う。</p> <p>(6 松田侑子/8回)  産業分野、福祉分野における実習の事前指導、事後指導、および、現場での指導を行う。</p> <p>(7 足立匡基/4回)  司法分野における実習の事前指導、事後指導、および、現場での指導を行う。</p>	オムニバス方式
医学・保健医療系科目 精神医学	<p>本講義では、精神的・心理的・社会的な存在としての人間が、どのような状況において精神的に破綻をきたし、精神症状を顕在化させるに至るかを理解するとともに、精神障害者が生きていくには周囲の適切な援助と理解が必要であることについても理解を深めていく。精神医学については、特に精神症状学、精神科診断学、精神科治療学、精神医学と社会とのかかわりを中心として、相互の関係を把握しながら、全体的に理解していくことができるように学んでいく。</p>	

臨床栄養学	<p>臨床栄養学とは、様々な疾患、様々な病態の成因、進展、治癒に栄養学がどのように関わっているか、また各々の疾患、病態に対してどのような栄養療法を適用すべきかを検討し、同時に栄養学を応用して、健康の維持・増進を図り、様々な疾病の予防を行うための学問です。高血圧、糖尿病、動脈硬化、癌、その他の病気の患者の効果的な看護には、栄養代謝、人体の仕組み、病因、さらに、患者の病態に応じた病院食のコンセプトと実際、を理解する必要があります。本授業では生化学、栄養学の基礎的な知識を学習するとともに病態への応用知識を学びます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (117 七島直樹/8回) 三大栄養素(糖、脂質、タンパク質)の構造と代謝の生化学を講義します。</p> <p>(118 野坂大喜/7回) 栄養と病態の関わり、また栄養状態を把握するための臨床検査データの読み方、栄養アセスメントを講義します。</p>	オムニバス方式
老年看護学概論	<p>本講義では、老年期の特徴および高齢社会の課題と政策の理解を基に、老年看護学の特殊性とケアの基盤を学ぶ。また、加齢変化を踏まえたコミュニケーションや援助の基本について学ぶ。具体的な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期を生きる人の理解</li> <li>2. 高齢者を取り巻く社会の変化とヘルスケアシステムの変遷、高齢者の暮らしを支える法律と制度・サービス</li> <li>3. 地域包括ケアシステムと看護の課題</li> <li>4. 世界における日本の老年看護</li> <li>5. 心身の加齢変化と健康アセスメント</li> <li>6. 心理・精神機能の加齢変化と生活への影響、認知症高齢者の看護の基本</li> <li>7. 認知症高齢者のアセスメント、生活障害の看護</li> <li>8. 学習状況の確認と振り返り</li> </ol>	
作業療法概論	<p>本講義では、リハビリテーションの専門職としての作業療法士になるために必要な作業療法についての概略を講義する。内容は、作業療法の定義、道徳療法、アーツアンドクラフツ運動と米国作業療法の歴史からみた作業療法のルーツ、わが国の作業療法の歴史について講義する。さらに作業療法の対象領域、作業療法の諸理論と作業療法で作業を用いる方法論の基礎、管理運営、作業療法士に求められる資質や倫理、記録・報告の意義について講義する。</p>	
心理支援科学英語講読応用	<p>本講義では、受講生それぞれが関心のある心理支援に関する英語文献を読み、心理学、医学及び保健学等の英語論文を読むための英語の知識を深める。心理支援科学英語購読基礎を引き継ぎ、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの英語の4技能及びプレゼンテーション能力という広いコミュニケーション能力を発展させながら、個人的に興味のある心理学、医学及び保健学等の英語文献を検索する技能を身に付け、見つけて入手した文献を読み、内容を英語で発表して質疑応答ができることを目指す。</p>	
心身医学	<p>本講義では、病気の発症や進行に心理的要因が大きく関わる心身症等について、環境的要因、ストレス等のメカニズム、治療や再発予防等について学習する。各論としては、摂食障害、気管支喘息、過敏性腸症候群、不安障害、小児の心身症、女性への心身医学的アプローチ、男性への心身医学的アプローチ、身体表現性障害、不登校、適応障害を取り上げ、それぞれの疾患の概念、発生機序、症状、経過と予後、治療などについて学習する。</p>	

薬理学	<p>当該科目は、公認心理師の養成にあたって開講する必要な科目のうち、「22. 精神疾患とその治療」を代替する科目である。精神疾患の治療において多くの医薬品が、様々な投与方法によって患者様に投与されている。しかし、「薬は逆さに読むとリスク」と例えられるように、全ての医薬品には目的の効果以外に副作用というリスクがあり、有害なものもある。従って、薬物治療を効果的かつ安全に行っていくには、治療に参画する医療スタッフ全員が薬に対する正しい知識をもつことが必要となる。本講義では、医薬品の有効性や危険性を認識し、最善の薬物治療を担うチーム医療の一員に求められる最低限の薬の知識を学習し、適正な薬物治療に参画できるようになるための素地を身につけることを目標とする。</p>	
衛生学・公衆衛生学	<p>本講義では、個人を介して人間集団の健康を維持増進するための科学、技術である公衆衛生学を学習する。その内容は分野別、ライフステージ別に分けて取り扱う。また、内容によっては医学のみならず自然科学や社会科学の知識を含めた取り扱いとなる。</p> <p>1回 感染症、2-3回 産業保健（三管理等、労働衛生法規、労働災害等）、4回 母子保健・学校保健、5回 成人保健、6回 老人保健・精神保健、7-8回 人口動態統計、9回 疾病統計、10回 衛生統計と衛生指標、11回 疫学とは、12回 コホート、患者対象研究、13回 疫学方法の特徴、14回 特異度、敏感度、15回 適中率など について学習する。</p>	
疫学	<p>病気を引き起こす環境要因やその因果関係についての理解を深めると共に、疫学を用いた原因の特定に関する分析を行う。地域政策を策定していく上で、疫学を活用する意義を理解する。</p> <p>疫学の考え方や基本的な用語を理解から、疾病の原因、疫学的な因果関係の考え方、アウトブレイク時の疫学、日本で行われている疾病登録の概要と意義、主な疾患の疫学（疾病の危険因子や防御因子）、社会疫学や政策疫学、ライフコース疫学の概要について学ぶ。</p>	
老年看護方法論	<p>本講義では、老い（老化）とは何かを身体的、心理的、社会的側面から考察し、高齢者の家庭や社会における役割および健康のレベルに応じた援助方法を学ぶ。具体的な内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康障害の臨床的特徴、脱水症・熱中症の看護</li> <li>2. 外皮系、呼吸器系、血液・免疫系、内分泌・代謝系などの加齢変化と影響、掻痒症、感染症の看護</li> <li>3. 循環器系の加齢変化と影響、睡眠-覚醒リズムの障害、うつ病、せん妄、心不全の看護</li> <li>4. 腎・泌尿器系の加齢変化と影響、排尿・排便障害の看護</li> <li>5. 消化器系の加齢変化と影響、摂食・嚥下障害、低栄養の看護</li> <li>6. 運動器系の加齢変化と影響、転倒、骨粗鬆症・骨折、パーキンソン病の看護</li> <li>7. 高齢者と災害看護</li> <li>8. 授業の総括と理解度の確認</li> </ol>	

医療リスクマネジメント	<p>本講義では、医療リスクマネジメントの意義を総合的に理解させるために、看護、放射線、臨床検査、理学療法、作業療法の分野各専門分野で発生した、または発生の可能性のあるリスクを分析し、一般化し、その予防に対する考え方を醸成させる。過去に国内で発生した医療事故・医療過誤の実例をもとに、その背景、要因、防止対策を考察し、法的責任範囲を含めた医療リスクマネジメントの意義と内容について説明できることを目標レベルとして学びます。</p> <p>(オムニバス形式/全8回) (49 高橋康幸/2回) 放射線領域の医療リスクマネジメントについて講義する。</p> <p>(50 野戸結花/1回) 看護領域の医療リスクマネジメントについて講義する。</p> <p>(89 吉田英樹/1回) 理学療法領域の医療リスクマネジメントについて講義する。</p> <p>(118 野坂大喜/2回) 医療リスクマネジメント総論と臨床検査領域の医療リスクマネジメントについて講義する。</p> <p>(119 山内寿子/1回) 医療現場の医療リスクマネジメントについて講義する。</p> <p>(132 澄川幸志/1回) 作業療法領域の医療リスクマネジメントについて講義する。</p>	オムニバス方式
発達小児科学	<p>本講義では、小児の成長・発達および小児期各期の特徴を学び、代表的な小児疾患の疾患概念や治療等について学習する。各論としては、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害、発達性協調運動障害などの神経発達障害群、チック障害群、排泄症群、睡眠・覚醒障害群、食行動障害の他、近年注目されている愛着障害、虐待についても取り上げる。最後に、まとめとして胎児期から始まり新生児、小児、思春期を経て成人期へとつながる成育医療についても学ぶことにする。</p>	
医療情報学	<p>本講義では、日本においては、医療財政の破綻と抑制政策、医療の標準化と質的保証、これらが医療の歴史の必然的なひとつの流れとして形成されてきたという背景を踏まえて、医療の標準化や質的保証などにおいて、情報がどの様に用いられ、その役割を担っているのかを学習する。また、エビデンスに基づいた臨床疫学や医療統計学の基礎と臨床研究への応用、各種学術情報の活用法について学習する。</p>	
保健医療心理アセスメント	<p>保健医療分野において求められる心理アセスメントと医学的診断の関係性という観点からその目的を理解する。「心理アセスメント」の実習で身に着けた基本的な態度、記録及び報告、倫理的な配慮を基礎として、保健医療分野において求められるアセスメント方法についてさらに理解を深める。近年、わが国で標準化されたアセスメント方法を扱い、基本的な検査手続き、報告書の作成、フィードバックについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 足立匡基/7回) 保健医療分野における心理アセスメントの概説、適応行動のアセスメント、神経発達症のスクリーニング(質問紙法、面接法)を担当する。</p> <p>(8 高橋芳雄/8回) 神経発達症のスクリーニング(質問紙法、観察法)、認知症・高次脳機能障害のスクリーニング・症状評価、記憶能力のアセスメント、精神症状の評価を担当する。</p>	オムニバス方式

保健医療心理支援演習	<p>本演習では、臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を踏まえ、保健医療領域での心理支援に特化した知識及び技能の習得を目的として、具体的な場面を想定したロールプレイ、事例検討を中心に演習を進める。特に本演習では、保健医療領域で重視される認知行動療法に焦点を当て、認知行動療法によるケースフォーミュレーション、面接の実際を習得する。本演習では、保健医療領域を軸に、さまざまな領域での多職種との連携、他の専門職に対するコンサルテーションや地域支援、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について事例を通して学習する。</p>	
慢性疾患学	<p>本講義では、生活習慣病や難病、その他多様な慢性的推移を示す疾病の原因やメカニズム、治療法等について、医学や保健医療、福祉等の観点から学習する。各論としては、慢性腎疾患、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病、内分泌疾患、血液疾患、悪性新生物、膠原病、神経・筋疾患、慢性消化器疾患、皮膚疾患群について取り上げる。これらの疾患に罹患した患者様への他職種連携による長期的な関わり、さらには末期での関わりなどについても学習する。</p>	
生命倫理学	<p>本講義では、ヒトの生命に関わる医療という観点から、生きることと死についての概念や定義、その倫理的な現状を学習する。とくに生殖技術、移植医療、遺伝子技術にかかわるバイオテクノロジーの進歩による先端医療技術の発展に伴い、新たな生命倫理的な問題が生じており、今日の医学・医療の問題を考えるための土台を築く。そして、患者－医療者関係において、患者の自己決定権の確立、患者の諸権利を保障するための基礎をなすインフォームド・コンセントの理解を深める。</p>	
救急・蘇生医学	<p>本講義では、医療従事者として必要な救急・蘇生医学の概念、救急処置、代表的な救急疾患について学び、その意義、診断・治療・看護のために必要な知識・技術について学習する。また、病院内外で一次救命処置を積極的に行うことができる（救命処置に躊躇しない）医療従事者を育成する。</p> <p>○救急・蘇生医学の概念、システム、現状について学ぶ。  ○一次救命処置(BLS)、二次救命処置(ACLS)、小児・新生児の救命処置の概略を学ぶ。一次救命処置についてはシミュレーター、医療機器を用いた実技訓練を行う。  ○代表的な救急疾患（内因性、外因性疾患）について病態、診断、治療・対処、予防に必要な知識・技術を学ぶ。  ○病院内外で一次救命処置を積極的に行うことができること（救命処置に躊躇しない）を目指す。</p>	
保健医療地域支援実習	<p>医学研究科附属子どものこころの発達研究センターや健康未来イノベーションセンターが行う地域支援活動に参加し、保健医療と福祉、教育が連携して取り組む地域支援活動について、体験的に理解を深める。具体的には、大学が市から委託を受けている発達健診事業に参加し、神経発達症の早期発見と支援、療育から就学に至る連携システムや、認知症の予防と早期発見、大学が市と取り組む地域包括ケアシステムの仕組み作り等について学習する。実習は、事前指導、実習、事後指導から構成し、実習中は、現場の心理職の指導を受ける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)  (4 栗林理人/10回)  オリエンテーションと総括及び、岩木プロジェクト健診に関わる実習を担当する。</p> <p>(7 足立匡基/10回)  オリエンテーションと総括及び、3歳児検診に関わる実習を担当する。</p> <p>(8 高橋芳雄/10回)  オリエンテーションと総括及び、5歳児発達健診に関わる実習を担当する。</p>	オムニバス方式



実践系科目 教育系科目	教育原理	本講義は、科目名にもあるように、教育を原理的に捉え直すことを目的とするものである。そもそも教育とは何であるのか、あるいは教えることと学ぶこととはどういう関係にあるのか等々、我々が何気なしにこれまで受けてきた「教育」という営みを徹底解剖し、その内実を深く歴史的・思想的な観点から考えていくことにしたい。教育の本質、機能、目的、方法などについての基本的な考えを理解し、昨今の学校教育をめぐる課題について、自分なりに深く考えることができるようにする。	
	養護学概論	本講義では、講義を中心とするがグループ討議や発表も取り入れながら、養護の概念と目的・機能・養護の対象について、養護教諭の歴史や養成制度、子どもの健康課題の変化、専門職の捉え方、学校保健の歴史から多面的に学ぶ。特に、教育課題との関連で考察を深めていく。さらに、養護実践の活動過程について、養護の概念と照らしながら、養護教諭や保健室の機能を中心に考察し、学校現場における養護実践を分析的に捉えながら学ぶ。	
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	本講義では、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育に関する制度や理念についての理解を踏まえ、通常の学級にも在籍する特別な教育的ニーズのある学習障害(LD)、自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠如多動性障害(ADHD)等の発達障害に焦点をあて、障害の定義や行動特性、教育上の基本的な配慮事項等について理解を深め、児童・生徒の指導や支援について学ぶ。 また、貧困や異文化・外国籍の児童生徒等、特別な教育的ニーズを有する子どもの教育課題に焦点を当て、その支援について学ぶ。  (オムニバス方式/全15回) (52 敦川真樹/8回) 発達障害・知的障害児の教育環境と促進・阻害因子、APA (Adapted Physical Activity)、発達障害と発達検査、特別支援教育の開始とその範囲、障害者権利条約などについて講義します。  (91 吉田美穂/7回) 特別な教育的ニーズのある児童生徒の教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と関係機関との連携、特別支援教育での支援の実際、外国につながる子どもの現状、教育的ニーズ、教育支援の実際などについて講義します。	オムニバス方式
	健康教育概論	学校保健における健康・安全は、全教職員に理解され、実践されることが重要である。近年、児童生徒の心身の健康問題や健康課題は多岐に渡っている。また学校では予想もしないような事件や事故が発生するなど安全確保が重要な課題でもある。そこで、児童生徒の心身の健康の保持増進のための健康教育と健康管理、さらに自他の生命尊重を基盤とした安全能力の育成を図るための安全教育と安全管理について講義と実習を行う。  (オムニバス方式/全15回) (53 葛西敦子/3回) 児童生徒の感染症、学校で気をつけて欲しい児童生徒の病気、学校における慢性疾患をもつ子どもへの支援などについて講義します。  (54 田中完/2回) 学校保健・安全と学校教育、保健室の機能と健康・安全教育等について講義します。  (55 太田誠耕/3回) 学校における安全・犯罪被害の防止、学校安全と地震と防災、災害にあった子どものこころのケアなどについて講義します。  (92 新谷ますみ/2回) 子どもの発育・発達、性教育などについて講義します。  (120 原郁水/2回) 学校環境衛生の管理、保健教育などについて講義します。  (137 小玉正志/3回) 児童生徒の健康・安全教育と教職員の役割の講義と救急処置(CPR, AEDなど)の実習などを行います。	オムニバス方式

	幼児理解と教育相談	幼児教育の現場で起きるさまざまな問題に適切に対応するためには、幼児の発達をしっかりと理解していることが必要である。また、保育者には、子ども・保護者のそれぞれに対して適切な教育相談を行うことが求められる。この授業では、幼い子どもの発達の理解と教育相談の基本を併せて学ぶ。さらに、事例を検討するグループワークを通じて、保育者としての教育相談における基礎的な力を養う。	
	教職入門	本講義では、学校という空間を実際に体験するため、市内及び周辺の高등학교に行き、観察学習を行う。加えて、当該高等学校の教員から、教科指導及び生徒指導に関する講話を聞き、学校教育についての理解を深める。また、観察学習の内容を共有し、討論することで、学校教育の実際を体験的に学ぶ。講義や学校観察実習、討論などを通して、教職の意義や教員の役割について理解を深め、教職への心構えを築くことを目的とする。	
福祉系科目	社会福祉学	本講義では、社会福祉の基本を学び、個々の問題に最も適した福祉サービス利用を見つけ、行政機関や施設への橋渡し役となれることを目指す。 社会福祉の分野における法律・制度の改正の現状を学び、医療従事者に必要な社会福祉の関係法律と制度を理解する。本講義で取り上げる内容としては、憲法25条「生存権」と社会保障、児童や家庭に対する支援・保健福祉医療サービス、低所得者に対する保健医療福祉サービス、障害児・障害者(含む難病者)に対する保健医療福祉サービス、高齢者に対する保健医療福祉サービス、保健医療福祉連携による地域活動等である。	
	セルフケア論	本講義では、慢性疾患を理解し支えるために必要なセルフマネジメントの理論的背景を学ぶとともに、それらを自分自身や他者に実践的に活用して学ぶことを目的とする。慢性疾患とともに生きていく人のセルフケアについての概念を学ぶために、学生自身の自己の健康上の問題を把握、受容したうえで、問題解決のためのセルフケア能力を育み、その上で、身体的・精神的・社会的に様々な健康レベルにある人に対して、どこに問題があるか、強みは何か多角的に分析をするとともに、セルフケア能力を身につけていけるよう動機づけをし、受容し、行動を変容させていくことの重要性を理解して実際的な介入を行いながら習得する。	
	保健医療福祉行政論	本講義では、健康な地域づくりを推進する行政のしくみと機能、社会保障制度(社会保障制度の理念としくみ、医療提供体制、介護保険制度、社会保障・社会福祉の制度)、保健医療福祉の計画と評価についての基礎的な知識を学ぶ。具体的には、保健医療福祉行政のめざすものを理解した上で、保健医療福祉制度の変遷を学び、保健医療福祉行政の財政の理念としくみを踏まえた後、地域保健の体系や、地方公共団体での地方自治法に基づく市町村総合計画(基本構想)を柱とする、さまざまな分野の計画の推進の仕方について習得する。	
	社会保障論	本講義では、社会保障が、どのような「生活上の事故」に遭遇しても安心、安全に暮らせることを目的として、社会的対応策として整備されてきたものであることについて学ぶ。また、年金保険、雇用保険、労災保険、社会扶助、医療保険、介護保険等の具体的な制度設計についてや医療従事者にとって生活保護の医療扶助、保健・医療制度や労災制度等のとくに身近な社会保障制度を学ぶ。 その上で多職種(保健師・社会福祉士・精神保健福祉士等)と協働して支援にあたる重要性を改めて理解し、実践できることを目指す。	
	セクシュアリティ論	本講義では、人間の生と性の基本概念を理解し、多様なセクシュアリティとについて学ぶ。リプロダクティブヘルス/ライツの視点をもちながら、心理的・社会的ジェンダーの概念もふまえて、セクシュアリティの概念、ライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達、セクシュアルアイデンティ、性行動、セクシュアリティおよび性に関する問題等について理解する。また専門職としての課題や問題解決、援助について学ぶ。講義には、グループ討議や発表も含む。	

産業系科目	経営学入門	<p>本講義では、公認心理師の活動領域のひとつである産業領域では、社員の求めるものと企業の求めるもの、どちらかに偏ることなく、両者をともに尊重することが重要となる。本授業では、企業の求めるものを理解するために、経営組織論、地域科学、地域イノベーション論、現代企業論、経営戦略論、グローバル経営、マーケティングという幅広いテーマの基礎を学ぶ。</p> <p>また、こうした経営学に関する基礎的な理解を通して、現実の企業経営の課題との解決策を分析するための力を養う。</p>	
	経営戦略論	<p>公認心理師の活動領域のひとつである産業領域は、社員の求めるものと企業の求めるもの、どちらかに偏ることなく、両者をともに理解する必要がある。本授業では、企業の求めるものを理解するために、競争戦略論の基本を学ぶ。同じような商品を同じような価格で同じような場所で販売されているにもかかわらず、その成果(利益・売上)でみると、とある商品は大きな成果をあげている一方でとある商品はほとんど成果をあげないことがある。なぜこのような現象が生じるのか、競争戦略の視点から事例に基づきながら考察していく。</p>	
	経営管理論	<p>公認心理師の活動領域のひとつである産業領域は、社員の求めるものと企業の求めるもの、どちらかに偏ることなく、両者をともに理解する必要がある。本授業では、企業の求めるものを理解するために、近年とみに注目を集めている技術経営(MOT)について、その基本的概念と考え方を学ぶ。近年の日本企業が抱えている課題は、優れた商品やサービスを創造しているにもかかわらず、それが成果(利益・集客)につながらないことにある。なぜこのような現象が生じるのか、どうすればこのような現象を改善することができるのか、事例に基づきながら考察していく。</p>	
	経営組織論	<p>本講義では、公認心理師の活動領域のひとつである産業領域では、社員の求めるものと企業の求めるもの、どちらかに偏ることなく、両者をともに尊重することが重要となる。本授業では、企業の求めるものを理解するために、組織デザイン、モチベーション、リーダーシップ、組織文化、組織間関係、組織変革、新制度派組織理論など、経営組織に関する多様な現象を理解するための理論や概念を学ぶ。</p> <p>また、経営組織論の諸概念を用いて、現実の企業組織の課題を分析し、その解決を提案するための力を養う。</p>	
司法系科目	刑事司法論	<p>本講義では、刑事司法手続きを、裁判手続きだけでなく、事件発生から犯罪者の社会復帰までを含むものと広く捉えた上で、まずは基本的な事項について解説をした上で、課題等について考えていく。講義の前半では、刑事裁判の手続きを定めた「刑事訴訟法」を中心に授業を進める。ここでは、裁判員制度に関する諸問題や少年事件の手続きなどについても触れることになる。講義の後半は、刑事政策の中のとくに犯罪者の矯正・更生、あるいは被害者に対する施策などについて学ぶ。また、安楽死や臓器移植などの生命倫理に関する問題についても、法的な観点から検討を加えていく。</p>	
	法学特殊講義	<p>本講義では、子どもと法律に関する問題の中から「少年非行」「(両親離婚後の非監護親と子との)面会交流」「児童虐待」を取り上げる。進め方としては、①各テーマについて家庭裁判所の裁判官・調査官から現状分析や法的問題などを、実務経験を踏まえながら解説していただく、②その内容について数名のグループごとに資料収集や調査を行う、③各グループ内で議論した結果を全体で発表する、④見解交換を通じて現行制度内での問題への対応と制度改善への提言を検討する、という手順でそれぞれの問題について理解を深める。</p>	

卒業研究	臨床心理学基礎研究	<p>本授業では、心理学を実際に行うために必要な計画、調査・実験、分析等の基本的スキルを身につけることを目指す。受講生は自ら興味のある分野について、先行研究のレビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データ分析、論文執筆を行う。本授業では、基本的に先行研究の追試研究を行う。授業は受講生が各自の興味にしたがい各教員のゼミに所属し、ゼミごとに少人数形式で行う。</p> <p>(単独 (ゼミごと) /全30回)  (1 宮原資英/30回)  障害児・障害者心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(2 小河妙子/30回)  基礎心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(5 安達知郎/30回)  家族心理学、学校心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(6 松田侑子/30回)  発達心理学、産業心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(7 足立匡基/30回)  心理アセスメント、福祉心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(8 高橋芳雄/30回)  心理アセスメント、神経心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p>	
	臨床心理学研究	<p>本授業では、これまでの授業で習得した計画、調査・実験、分析等の基本的スキルを用いて、自らの興味関心を心理学的に解明するスキルを身につけることを目指す。受講生は自ら興味のある分野について、先行研究のレビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データ分析、論文執筆を行う。本授業では、自らの興味関心に基づき卒業研究を行う。授業は受講生が各自の興味にしたがい各教員のゼミに所属し、ゼミごとに少人数形式で行う。</p> <p>(単独 (ゼミごと) /全30回)  (1 宮原資英/30回)  障害児・障害者心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(2 小河妙子/30回)  基礎心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(5 安達知郎/30回)  家族心理学、学校心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(6 松田侑子/30回)  発達心理学、産業心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(7 足立匡基/30回)  心理アセスメント、福祉心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p> <p>(8 高橋芳雄/30回)  心理アセスメント、神経心理学に関して、受講生が自ら追試研究を行えるよう、研究指導する。</p>	

	卒業研究	<p>心理学的支援を行うためには、人間の心の基本的な動きを理解することだけでなく、支援対象者の心身の動きを理解すること、支援技法を理解することが必要となる。卒業研究では、臨床心理学に関する多様なテーマについて、受講生が自らの興味関心にもとづき、研究をすすめる。教員は研究の実践、指導を行い、先行研究レビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データの分析などについて論文指導を行う。</p> <p>(1 宮原資英) 障害児・障害者心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 小河妙子) 基礎心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 安達知郎) 家族心理学、学校心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 松田侑子) 発達心理学、産業心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 足立匡基) 心理アセスメント、福祉心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 高橋芳雄) 心理アセスメント、神経心理学に関する研究指導を行う。</p>	
--	------	--	--

## 弘前大学 設置申請に係る組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>弘前大学</b>				<b>弘前大学</b>				
人文社会科学部				人文社会科学部				
文化創生課程	110	-	440	文化創生課程	110	-	440	
社会経営課程	155	-	620	社会経営課程	155	-	620	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	150	-	600	学校教育教員養成課程	<u>140</u>	-	<u>560</u>	定員変更(Δ10)
養護教諭養成課程	20	-	80	養護教諭養成課程	20	-	80	
医学部				医学部				
医学科	112	20	772	医学科	112	20	772	
保健学科	200	30	860	保健学科	200	30	860	学部の学科の設置(意見伺い)
				心理支援科学科	<u>10</u>	-	<u>40</u>	
理工学部				理工学部				
数物科学科	78	2	316	数物科学科	78	2	316	
物質創成化学科	52	1	210	物質創成化学科	52	1	210	
地球環境防災学科	65	2	264	地球環境防災学科	65	2	264	
電子情報工学科	55	2	224	電子情報工学科	55	2	224	
機械科学科	80	2	324	機械科学科	80	2	324	
自然エネルギー学科	30	1	122	自然エネルギー学科	30	1	122	
農学生命科学科				農学生命科学科				
生物学科	40	-	160	生物学科	40	-	160	
分子生命科学科	40	-	160	分子生命科学科	40	-	160	
食料資源学科	55	-	220	食料資源学科	55	-	220	
国際園芸農学科	50	-	200	国際園芸農学科	50	-	200	
地域環境工学科	30	-	120	地域環境工学科	30	-	120	
計	1,322	20	5,692	計	1,322	20	5,692	
		40				40		
<b>弘前大学大学院</b>				<b>弘前大学大学院</b>				
人文社会科学部				人文社会科学部				
文化科学専攻(M)	10	-	20	文化科学専攻(M)	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和2年4月学生募集停止
応用社会科学専攻(M)	6	-	12	応用社会科学専攻(M)	<u>0</u>	-	<u>0</u>	
				人文社会科学専攻(M)	<u>16</u>	-	<u>32</u>	研究科の専攻の設置(事前伺い)
教育学部				教育学部				
学校教育専攻(M)	16	-	32	学校教育専攻(M)	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和2年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	16	-	32	教職実践専攻(P)	<u>18</u>	-	<u>36</u>	
								研究科の専攻の設置(事前伺い)
医学部				医学部				
医科学専攻(D)	60	-	240	医科学専攻(D)	60	-	240	
保健学部				保健学部				
保健学専攻(M)	30	-	60	保健学専攻(M)	30	-	60	
保健学専攻(D)	12	-	36	保健学専攻(D)	12	-	36	
理工学部				理工学部				
理工学専攻(M)	120	-	240	理工学専攻(M)	120	-	240	
機能創成科学専攻(D)	6	-	18	機能創成科学専攻(D)	6	-	18	
安全システム工学専攻(D)	6	-	18	安全システム工学専攻(D)	6	-	18	
農学生命科学研究科				農学生命科学研究科				
農学生命科学専攻(M)	60	-	120	農学生命科学専攻(M)	<u>50</u>	-	<u>100</u>	定員変更(Δ10)
地域社会研究科				地域社会研究科				
地域社会専攻(D)	6	-	18	地域社会専攻(D)	6	-	18	
				地域共創科学研究科				研究科の設置(意見伺い)
				地域リノベーション専攻(M)	<u>15</u>	-	<u>30</u>	
				産業創成科学専攻(M)	<u>15</u>	-	<u>30</u>	
計	348	-	846	計	<u>354</u>	-	<u>858</u>	